

令和2年度

# 大山崎町教育委員会事業報告書

(令和元年度対象)



令和2年8月

大山崎町教育委員会

本報告書は、「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条の規定に基づき、令和元年度事務の管理及び執行の状況について点検・評価を行い、作成したものです。

大山崎町教育委員会は、この点検・評価を踏まえ、今日的な教育課題や要請に対応した教育行政の推進に努力していきます。

## 大山崎町教育委員会

### 教育委員会名簿

職名	氏名
教育長職務代理	榎本 和彦
委員	並川 康子
委員	岡 弘子
委員	馬場 信行

### 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

第26条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第1項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第4項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

# 1 教育委員会の活動状況

## 1. 会議の開催状況

No.	会議名	開催日	議事（審議）案件
1	4月定例会	平成31年4月26日	諸報告について （第27号議案）大山崎町社会教育委員の委嘱について （第28号議案）大山崎町社会教育委員の委嘱について
2	5月定例会	令和元年5月29日	諸報告について
3	6月定例会	令和元年6月20日	諸報告について （第29号議案）大山崎町体育館設置条例施行規則の一部改正について （第30号議案）大山崎町立学校施設の開放に関する規則の一部改正について （第31号議案）大山崎町立岩崎運動広場管理運営規則の一部改正について
4	7月定例会	令和元年7月25日	諸報告について
5	8月定例会	令和元年8月30日	諸報告について （第32号議案）令和2年度から小学校において使用する教科用図書の採択について （第33号議案）令和2年度に中学校において使用する教科用図書の採択について （第34号議案）教育財産の取得の申出について
6	9月定例会	令和元年9月27日	諸報告について
7	10月臨時会	令和元年10月10日	（第35号議案）大山崎町教育委員会事務局職員の任免について
8	10月定例会	令和元年10月31日	諸報告について （第36号議案）大山崎町議会の議決を経るべき議案（大山崎町立中央公民館の設置、管理及び職員に関する条例の一部改正について）について （第37号議案）大山崎町議会の議決を経るべき議案（大山崎ふるさとセンターの設置及び管理に関する条例の一部改正について）について （第38号議案）大山崎町議会の議決を経るべき議案（大山崎町立岩崎運動広場の設置及び管理に関する条例の一部改正について）について （第39号議案）大山崎町議会の議決を経るべき議案（大山崎町公有財産の使用料に関する条例の一部改正について）について

			(第40号議案)大山崎町都市公園条例施行規則の一部改正について
9	11月定例会	令和元年11月29日	諸報告について (第41号議案)大山崎町立小学校及び中学校の管理運営に関する規則の一部改正について
10	12月定例会	令和元年12月25日	諸報告について
11	1月定例会	令和2年1月27日	諸報告について
12	2月定例会	令和2年2月28日	諸報告について (第1号議案)令和2年度小学校使用教科用図書のうち学校教育法附則第9条に規定する教科用図書の採択について
13	2月臨時会	令和2年2月28日	(第2号議案)教職員管理職の人事異動について
14	3月定例会	令和2年3月23日	諸報告について (第3号議案)令和2年度学校教育・社会教育の指導の重点を定めることについて (第4号議案)大山崎町立の小学校及び中学校の教職員の業務量の適切な管理等に関する規則の制定について (第5号議案)国際交流員任用規則の一部改正について (第6号議案)大山崎町スポーツ推進委員の委嘱について (第7号議案)大山崎町スポーツ推進委員の委嘱について (第8号議案)大山崎町スポーツ推進委員の委嘱について (第9号議案)大山崎町スポーツ推進委員の委嘱について (第10号議案)大山崎町スポーツ推進委員の委嘱について (第11号議案)大山崎町スポーツ推進委員の委嘱について (第12号議案)大山崎町スポーツ推進委員の委嘱について (第13号議案)大山崎町スポーツ推進委員の委嘱について (第14号議案)大山崎町文化財保護審議会委員の任命について (第15号議案)大山崎町文化財保護審議会委員の任命について (第16号議案)大山崎町文化財保護審議会委員の任命について

			(第17号議案)大山崎町文化財保護審議会委員の任命について (第18号議案)大山崎町文化財保護審議会委員の任命について (第19号議案)大山崎町立大山崎小学校評議員の委嘱について (第20号議案)大山崎町立大山崎小学校評議員の委嘱について (第21号議案)大山崎町立大山崎小学校評議員の委嘱について (第22号議案)大山崎町立大山崎小学校評議員の委嘱について (第23号議案)大山崎町立大山崎小学校評議員の委嘱について (第24号議案)大山崎町立第二大山崎小学校評議員の委嘱について (第25号議案)大山崎町立第二大山崎小学校評議員の委嘱について (第26号議案)大山崎町立第二大山崎小学校評議員の委嘱について (第27号議案)大山崎町立第二大山崎小学校評議員の委嘱について (第28号議案)大山崎町立大山崎中学校評議員の委嘱について (第29号議案)大山崎町立大山崎中学校評議員の委嘱について (第30号議案)大山崎町立大山崎中学校評議員の委嘱について
15	3月臨時会	令和2年3月23日	(第31号議案)大山崎町教育委員会事務局職員の任免について

## 2. その他の会議や活動など

### (1) 総合教育会議（町長が招集し、会議の構成員として教育長及び教育委員が出席）

	会議名	開催日	協議・調整事項
1	第1回	令和元年8月19日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大山崎町立中央公民館の施設整備について</li> <li>・大山崎町立小・中学校給食の今後の方針について</li> <li>・その他</li> </ul>

### (2) 教育委員の主な活動

教育委員会関係行事への参加（教育長のみが出席したものを除く）

- ・大山崎町立小中学校入学式・卒業証書授与式

- 大山崎町立小中学校運動会・体育大会
- 大山崎町立小中学校授業参観（研究発表会等）
- 学校計画訪問（授業参観、懇談等）
- 乙訓地方小学生駅伝大会
- 大山崎町成人式 ほか

### （3）委員研修

- |                       |               |
|-----------------------|---------------|
| ① 京都市市町村教育委員会連合会委員研修会 | 令和元年 5月31日（金） |
| ② 京都市内市町教育委員会研修会（京都市） | 令和元年11月 1日（金） |
| ③ 乙訓教育委員会連合会研修会       | 令和2年 2月 5日（水） |

## 2 教育行政事務に係る点検・評価



(1) 点検・評価の対象及び方法

令和元年度「指導の重点」に位置付けられ、教育委員会が所管又は教育委員会が関わる項目について、外部評価対象事業とし、委員の方から事業評価を頂くとともに様々な意見・助言等をいただきました。

(2) 評価委員

氏 名	役 職 等
浅 野 輝 男	人権擁護委員、学校評議員
田 中 久美子	元京都府教育委員会教師力向上アドバイザー、元学校長

### 3 事業評価シート

令和元年度 指導の重点 における目標	<b>【重点目標1】質の高い学力の育成</b> 「基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、「知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力」をはぐくむとともに、学習意欲の向上など、」主体的に学習に取り組む態度を養う。		
事務事業名	学力向上推進事業Ⅰ	担当部署	学校教育課
事業実績	<p>学習意欲の喚起と基礎的・基本的な学力の定着及び向上に向け、児童生徒の実情に合わせた事業として、次のような取組を行った。</p> <p>① 子どものための京都式少人数教育の実施</p> <p>&lt;大山崎小学校&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第5学年で少人数学級を実施</li> <li>第6学年で少人数授業を実施</li> </ul> <p>&lt;第二大山崎小学校&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第3・5・6学年で少人数学級を実施</li> </ul> <p>&lt;大山崎中学校&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>第1学年の数学科・英語科でチームティーチングを実施</li> <li>英語科において小中連携加配を配置し、小学校第6学年でチームティーチングを実施</li> </ul> <p>② 学力向上に向けた学校独自の取組</p> <p>&lt;大山崎小学校&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・山っ子検定の実施：国語・算数における学年での達成目標を定め、3学期に検定試験問題に挑戦させた。結果によっては補習を行い、全員合格を目標に取り組んだ。</li> <li>・補習がんばり日：全学年、週1日を設定した。</li> <li>・マスターウィークチェック：家庭学習や生活習慣についてのチェック週間を設けて取り組んだ。</li> <li>・「小学生個別補充学習『ジュニアわくわくスタディ』」事業として、第4・5学年、計40名の児童を対象に国語・算数の補習を実施した。 【実施日】7月22日(月)～24日(水)の3日間</li> </ul> <p>&lt;第二大山崎小学校&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝学習では、漢字や計算の繰り返し反復学習により、基礎的・基本的な学習内容の定着を図った。</li> <li>・学期毎のまとめテスト：指導内容の定着度を検証し、指導方法の改善に取り組んだ。</li> <li>・「小学生個別補充学習『ジュニアわくわくスタディ』」事業として、第4・5学年、計20名の児童を対象に国語・算数の補習を実施した。 【実施日】4月1日(月)～8月23日(金)のうち10日間</li> </ul> <p>&lt;大山崎中学校&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・朝学習では、各教科の既習事項の反復学習や朝読書等を取り入れ、基礎的・基本的な学習内容の定着を図った。</li> <li>・「中2学力アップ集中講座」事業として、第2学年14名の生徒を対象に、数学、英語の学力アップを目指した学習を実施した。</li> </ul>		

	<p>【実施日】7月23日（火）～11月19日（火）のうち14日間</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「中1振り返り集中学習『ふりスタ』」事業として、第1学年11名の生徒を対象に、国語・英語の補習学習を実施した。</li> </ul> <p>【実施日】7月23日（火）～8月22日（木）のうち8日間</p> <p>③ 英語教育推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・英検 Jr.の実施：小学校5・6年生を対象とし、町中央公民館を会場として2回実施した。検定料は町からの全額補助があり、1人1回分を無料として実施。参加児童は延べ70名。</li> </ul> <p>【実施日】9月7日（土）、2月1日（土）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・英語検定の実施：一次試験について、中学校を準会場として英語検定を年3回実施した。検定費用として一人1回、町からの補助（2級 3,000円、準2級 2,000円、3級 1,500円、4・5級 1,000円）。参加生徒は延べ278名。</li> </ul> <p>【実施日】5月31日（金）、10月4日（金）、1月24日（金）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・英語学習発表会：大山崎小学校5・6年生全員、大山崎中学校の希望者を対象に英語学習の成果についての発表会を実施した。発表児童生徒は87名。当日参観者は約100名。</li> </ul> <p>【実施日】10月24日（木）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校英語専科指導加配の配置：大山崎小学校3～6年、第二大山崎小学校5・6年において、外国語活動の授業を担当。</li> </ul>
成 果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少人数学級及び少人数授業により、個に応じた適切できめ細かい学習指導や生徒指導が可能になり、落ち着いて学習に取り組む姿勢が作られ、児童生徒の学習への関心を高めることができた。</li> <li>・英語科の小中連携加配の効用として、小学校の外国語活動の充実と中学校での学習規律をはじめとする学校生活への円滑な接続となっている。</li> <li>・小学校において英語専科指導加配が配置されたことで、質の高い英語教育が安定して実施することができた。</li> <li>・小学校での山っ子検定や学期ごとのまとめテストでは、各児童の学習の定着度合いが把握でき、指導に役立つとともに児童の学習への意欲向上につながった。</li> <li>・各校の重点研究の取組を通して、授業改善、指導力向上を図ることができた。</li> <li>・中2学力アップ講座は、数学、英語の補充学習を実施し、個々の生徒の学力アップにつながった。</li> <li>・中1振り返り集中講座「ふりスタ」や、小学生個別補充学習「ジュニアわくわくスタディ」事業では、基礎的・基本的な内容を中心に学習内容を厳選し、徹底した個別指導を行っており、その学習内容の定着と学習に対する意欲や興味・関心を高めることができたのではないかと考えられる。</li> <li>・平成28度から小学生も対象として取り組んだ英語検定の実施は、多くの児童生徒の学習意欲の向上につながっている。特に、英検の検定費補助は、受験人数増加への効果が大きかった。</li> </ul>
課 題 認 識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・より効果的に少人数教育を進めるため、小中学校の連携を図りながら、各種の学力診断テストなどを活用し、学力の向上の視点で分析及び検証しながらその在り方を研究する必要がある。</li> <li>・新学習指導要領の周知、指導計画の見直し等の研修が必要である。今後の国の</li> </ul>

	<p>動きに注視する必要がある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>令和2年度より本格実施される小学校5・6年生の外国語科、3・4年生の外国語活動が円滑に進められるための指導体制の充実及び研修が必要である。</li> <li>学力課題の大きい学年もあり、小中連携を生かし、課題把握及び学習指導・生徒指導の両面で計画的・組織的な指導が必要である。</li> </ul>
<p>評価委員の 所見</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「学力向上」を課題と捉え、向上への各取組が行われていることは評価できる。各校とも児童生徒の実態に合わせて、学習意欲喚起・学力定着向上のために様々に取り組まれて効果を挙げている。引き続き、児童生徒に、「主体的・対話的で深い学び」が実現し、今後の社会に求められる力が付けられるような授業改善の努力をしてほしい。</li> <li>学力向上において、学力テスト等は一定の目安にはなる。「平均」だけにとらわれず、個々の児童生徒の状況を捉えることが大切になるが、その意味で少人数学級、少人数授業、チーム・ティーチング、振り返り集中学習等、個に応じた指導は、個々の児童生徒の学力状況に応じた指導ができ、学力向上に大変有効であり、今後も継続して取り組まれない。</li> <li>英語検定補助及び小学校英語専科指導加配の配置は素晴らしい。グローバル化の時代、国を挙げて国際理解や英語への関心・意欲・技能の向上が言われている。小学5・6年生の外国語の教科化を見据えて、小学生にも拡充されたのは望ましいことである。ただ、英語が学外でそれを学ぶ児童生徒だけのものにならないよう、より一層全ての児童生徒の言葉への関心・英語力向上をお願いしたい。</li> <li>小学校の英語専科指導加配には外国語活動・外国語科の指導充実を期待するが、担任による外国語活動・外国語科の指導の在り方も研修されたい。</li> <li>人前で自分の思いを発言・発表することが苦手な児童生徒にとって英語学習発表会は、とても良い機会になっているものと思われる。英語力向上に有効な機会となっていることもあり、今後も継続して実施してほしい。</li> <li>英語学習発表会も英語力向上に有効な機会となっていると思われるが練習等に注がれる表に出ない指導時間もあることは気に止めておきたい。</li> <li>新学習指導要領は小中学校、全ての教職員で研修し、教育課程上も遺漏の無いよう取り組まれることを望む。</li> <li>今後も新学習指導要領がらみの道徳・外国語・プログラミング等新しい課題への教職員の対応・環境整備等にご努力いただきたい。</li> <li>休業中を含め、学力格差が懸念される。条件格差是正も含め、児童生徒の学力向上に留意されることを望む。</li> </ul>

令和元年度 指導の重点 における目標	<b>【重点目標1】質の高い学力の育成</b> 「基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、「知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力」をはぐくむとともに、学習意欲の向上など、」主体的に学習に取り組む態度を養う。		
事務事業名	学力向上推進事業Ⅱ	担当部署	学校教育課
事業実績	① 標準授業時数の確保 町内小・中学校の全学年で、新型コロナウイルス感染症による学校臨時休業により標準授業時数を下回るとともに、教育課程外の行事も計画どおり実施できなかった。 ② 学力向上に向けた教科補習の取組 教育課程外の取組として、小学校では、毎週2～3日間の放課後補習、夏季休業中の補習、毎日の朝学習を実施した。 中学校では、毎日の朝学習、定期テスト前の補習、夏季休業中の補習、中1振り返り集中講座、中2学力アップ事業、進路補習の補習学習を実施した。		
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症による学校臨時休業により標準授業時数の確保は、小・中学校ともに教科によってできなかったが、年度内に学ぶべき内容は概ね終えることができた。</li> <li>長期休業中を活用した補習学習、土曜日活用、行事の精選など、教育課程外時間での学力向上に向けた取組ができています。</li> </ul>		
課題認識	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業時数の確保は、学力の保障や向上、進路保障において必要要件である。そのため、授業時数の確保を最優先し、他の行事を効果的に設定する必要がある。</li> <li>上記の一方で、令和2年度については新型コロナウイルス感染症による4・5月の学校臨時休業の影響により、標準授業時数をクリアすることは困難であるため、夏季休業期間の短縮や学校行事の精選等により可能な限り授業時数を確保し、年度内に学ぶべき内容を達成するよう努める必要がある。</li> <li>学校が心豊かな児童生徒の育成を目指した事業を、土曜日活用を含めてどう編成するかが課題である。</li> </ul>		
評価委員の 所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>新型コロナウイルス感染症による学校臨時休業により標準授業時数の確保ができずとも年度内履修内容がクリアできたことは工夫の賜と推察する。4月以降も閉鎖が続くと新学習指導要領本格実施・移行期にあっては一層の工夫が必要となる。</li> <li>教育課題は年々膨らむ様相がある。引き続き、ねらいや付けたい力を明確にし重要度を勘案しながら思い切った精選や整理・工夫しての取組に期待したい。</li> <li>児童生徒に「付けたい力」と特に土曜活用等、教職員の「働き方改革」との兼ね合いを考慮できることが望ましい。</li> <li>教育課程外の学習会は教職員に物理的時間や時間には表れない負担が予想される。児童生徒への学習効果が検証されているのであれば、学習会が継続できる具体的な支援策を望む。</li> <li>地域や家庭の教育力の活用、放課後・土曜日の活用等による心豊かな児童生徒の育成に努められたい。その際、新学習指導要領の「社会に開かれた教育課程」社会教育の「開かれ、つながる社会教育」の観点で地域社会と共に児童生</li> </ul>		

	徒を育めるよう働きかける必要がある。そのため、地域学校協働活動・コミュニティ・スクールの検討を望む。
--	--

令和元年度 指導の重点 における目標	【重点目標4】 健やかな身体の育成と体力の向上 生き生きと逞しく生きるため、体育・スポーツ活動に親しむ習慣や望ましい食習慣をはじめ、健康的な生活を実践する態度を養う。		
事務事業名	特色ある学校づくりⅠ	担当部署	学校教育課
事業実績	◇小学校陸上交歓記録会（両小学校の第6学年対象） 9月18日（水） 大山崎小学校運動場・体育館 【全員種目】50m走 【エントリー種目A】走り幅跳び、走り高跳び、ソフトボール投げ 【エントリー種目B】100m走、50mハードル 【選択種目】学級別リレー		
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童は、各競技を通して、自分の体力・運動能力を把握できるとともに、合同開催により意欲を持って取り組むことができた。各競技で全力を出し切り、両校児童の交流を深めることができた。</li> </ul>		
課題認識	<ul style="list-style-type: none"> <li>本記録会は、体力や運動能力の向上を図る契機であり、児童にとっては自己の全力を出しきる楽しさや喜びを味わう大切な機会である。</li> <li>本記録会が、両校の児童の体力づくりや運動能力の向上に結び付く取組になることが更に期待される。</li> </ul>		
評価委員の 所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>両小学校の児童が「陸上競技」を通じて交流を深める良い機会となっている。</li> <li>選択種目の学級別リレーは児童に、より参加意識が生まれたのではないかな。</li> <li>次年度に、この行事を運営するのであれば新型コロナウイルス感染症関連で、より工夫が求められる。</li> </ul>		



令和元年度 指導の重点 における目標	<p><b>【重点目標1】質の高い学力の育成</b> 「基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、「知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力」をはぐくむとともに、学習意欲の向上など、」主体的に学習に取り組む態度を養う。</p> <p><b>【重点目標3】規範意識の醸成や他者を思いやる心など豊かな人間性の育成</b> 学校や社会のきまり・ルールを守り、社会の一員としての自覚を深めるとともに、よりよく生きようとする力の源泉となる豊かな人間性をはぐくむ。</p>		
事務事業名	特色ある学校づくりⅡ	担当部署	学校教育課
事業実績	<p>① 「KYO発見 仕事・文化体験活動」推進事業        &lt;大山崎小学校 4年生&gt;        実施日 : 5月~2月        実施内容: 大山崎町の伝統的な作物であるエゴマの栽培と収穫        &lt;第二大山崎小学校 4年生&gt;        実施日 : 11月28日(木)        実施内容: 福祉についての学習や福祉施設での体験活動        実施日 : 1月17日(金)        実施内容 生け花体験        &lt;大山崎中学校 2年生&gt;※キャリア教育として「職場体験活動」を実施        実施日 : 10月29日(火)、30日(水)        実施内容: 保育所、幼稚園、消防署、公共施設、福祉施設、美術館等の事業所17カ所にて、仕事についての学習や体験活動</p> <p>② フェンシング体験        実施日: 6月7日(金) 午前: 大山崎小学校、午後: 第二大山崎小学校        対象児童: 第3学年        実施内容・基本的なルールや用具の名前や使い方        ・マスクやユニフォームを着用しての試合形式のゲーム        ・元オリンピック選手による模範試合の披露        ※指導は京都フェンシング協会及び乙訓高等学校の池端花奈恵教諭に依頼した。</p> <p>③ もうすぐ1年生体験入学推進事業        &lt;大山崎小学校&gt;        5月18日(土) 「学校ってどんなところ？」        教室の見学や授業参観等        &lt;第二大山崎小学校&gt;        10月17日(土) 「小学校の運動会! よーいどん!」 30m走の参加        ※雨天のため中止        11月20日(木) 「1年生との交流会」        生活科の学習体験、1年生との交流など</p>		

成 果	<p>① 「KYO発見 仕事・文化体験活動」は、キャリア教育の一環として取り組み、勤労体験をすることで、その楽しさや厳しさを知り、地域社会との交流や地域の産業への関わりを深めるとともに、歴史的に本町と関わりの深いえごまの栽培・搾油等を通じて歴史・文化的学習の機会を提供することができた。</p> <p>中学校では、体験を通して望ましい職業観や勤労観を身に付けさせるとともに、地域社会に貢献する意欲も高められた。</p> <p>② フェンシング体験事業は毎年小学校第3学年において実施しており、児童にとってフェンシング競技への関心を高める貴重な機会となっている。こうした取組もあり、大山崎中学校のフェンシング部では、専門的な指導力のある顧問・外部指導者を活用した指導の下、活発に活動し優秀な成績を収めている。</p> <p>③ もうすぐ1年生体験入学推進事業では、入学前の子ども達が、小学校の教室で授業体験をするなど、小学校の学習活動に参加し、小学校入学への不安の解消を図るとともに、学習に対する興味を持ち、新たに始まる学校生活への期待を高めることができた。また、1年生にとっても今までに学んだことを表現する機会となり、自己肯定感や自己存在感を高める取組となった。新型コロナウイルス感染症の影響で、体験入学については今年度中止となった。</p>
課 題 認 識	<p>① 「KYO発見 仕事・文化体験活動」を通して、得たものや学んだことを生かし、地域の伝統文化への関心や職業観の醸成が図られることを期待している。</p> <p>② 児童はフェンシング体験授業において、フェンシング競技への楽しさや面白さを体験することができ、今後、フェンシング競技への参加児童生徒の拡大が期待される。しかし、令和2年度については新型コロナウイルス感染症の感染防止対策に万全を期すことが困難であると判断し、実施を断念することとなった。</p> <p>③ もうすぐ1年生体験入学を通して、入学後の生活習慣や学習習慣の変化への対応など、保育所・幼稚園などと小学校との円滑な接続について、今後も継続し、更なる充実が期待される。</p>
評 価 委 員 の 所 見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大山崎町の伝統的な作物であるエゴマの栽培と収穫は、大山崎小学校だけではなく、第二大山崎小学校においても実施されることを望む。</li> <li>・各校ともキャリア教育としても地域学習としても意味ある取組である。ただ、発達段階が違うとはいえ、小学校と中学校の取組に重複がないよう工夫されたい。また、キャリア教育については、職業観・勤労観を育むことも期待されている。職場体験の学年だけでなく、生涯に繋がる生き方の一部として小学校から各学年で系統的・組織的に学べるように工夫されたい。</li> <li>・両校第3学年で実施されているフェンシング体験事業は、他市町では見られない事業であるが、近年メジャーになりつつある同競技を体験学習することは、オリンピック・パラリンピックへの関心にも繋がる良い機会であり、今後も継続されることを期待する。</li> <li>・「もうすぐ1年生体験入学」は、入学前児童にとって小学校の様子を知ることのできる機会であり、指導者同士の交流も含め保幼小連携も期待される。その際、幼児教育として「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿（10の姿）」「学習指導要領」等の相互学習も有効ではないか。</li> <li>・入学前の幼児と共に家庭教育として、その保護者への啓発・ケア等にも配慮できる取組が望ましい。</li> </ul>

	<ul style="list-style-type: none"><li>・次年度は全ての取組が新型コロナウイルス感染症による影響を受ける。工夫して実施、実施しない等適切な判断を望む。</li></ul>
--	---

令和元年度 指導の重点 における目標	<b>【重点目標5】信頼を高める学校づくりの推進</b> 家庭や地域社会と連携・協働して、信頼に応える学校づくり、開かれた学校づくりを推進する。		
事務事業名	特色ある学校づくりⅢ	担当部署	学校教育課
事業実績	<p>◇土曜日を活用した授業・行事等の実施</p> <p>① 土曜授業・・・振替休日あり</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大山崎小学校・第二大山崎小学校</li> <li>5月18日—授業参観、学校説明会、PTA 総会</li> <li>10月12日—運動会</li> <li>11月30日—授業参観・乙訓小学生駅伝</li> <li>・大山崎中学校</li> <li>6月1日—授業参観、講演会（ネット社会との上手な付き合い方）、部活動懇談・参観</li> </ul> <p>② 教育課程外としての土曜日を活用</p> <p>&lt;小学校&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>学年親子交流会（両小学校とも全学年）</li> <li>英検 Jr 学校版（両小学校・年2回）</li> </ul> <p>&lt;中学校&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>部活動</li> </ul>		
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土曜日に学校公開の取組を行うことで、保護者からも好評で参加数が多くあった。</li> </ul>		
課題認識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ団体や高等学校の説明会など、各種団体の催しと重なり、児童生徒の出席を確保するための日程調整が難しい。</li> <li>・教職員の勤務環境を整える必要がある。</li> </ul>		
評価委員の 所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種団体との日程調整にはご苦労されているところであるが、いろいろな行事を実施していくなら調整は必須と思われるが、本来的に必要かどうかも含め検討がいるのではないかと。</li> <li>・土曜参観は、保護者が児童生徒の学校生活の様子を知る上で有効であり、是非とも継続されたい。ただ、児童生徒・教職員の負担が大きいことも考慮し、振替休日の実施等、教職員のへの負担を極力少なくされることを期待する。</li> <li>・児童生徒・保護者・教職員等の負担が少ない取り組み方を模索しながら、児童生徒への成果を期待したい。</li> <li>・交流に関わる行事の意義は認めるものの、次年度については新型コロナウイルス感染症関連で中止も検討せざるを得ない。</li> </ul>		

令和元年度 指導の重点 における目標	<p><b>【重点目標1】 質の高い学力の育成</b> 「基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得させ、「知識・技能を活用して課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力」をはぐくむとともに、学習意欲の向上など、」主体的に学習に取り組む態度を養う。</p> <p><b>【重点目標10】 家庭の教育力の向上</b> 家庭教育の自主性を尊重し、教育の出発点である家庭の教育力を高めるための支援を推進する。</p>		
事務事業名	特色ある学校づくりⅣ	担当部署	学校教育課
事業実績	<p>① リーフレット「大山崎っ子できます10」の活用 小・中学校で身に付けてほしい10項目の取組を定め、達成するために小学校低学年、中学年、高学年、中学生の4段階に分け、学年ごとに目当てを示した「大山崎っ子 できます10」を作成し、全児童生徒への配布と各教室での掲示や学校だよりでの紹介を行い、毎日の生活で意識することや保護者への啓発と協力を願った。 学校評価における児童生徒や保護者へのアンケート調査の項目に盛り込み、目標項目に対して達成状況を把握した。</p> <p>② 作品応募の成績や活動の実績（抜粋 掲載以外にもあり） 小・中学校とも、各種団体の作品応募に積極的に取り組み、児童生徒のもつ能力の育成と発揮する機会を持たせ、多くの優秀なる評価を得た。また、スポーツ活動にも実績を残した。(以下はその一例)</p> <p>&lt;大山崎小学校&gt; 「国際平和ポスターコンテスト」入賞1名 「全国教育美術展」特選1名、入選2名、佳作13名 「人権擁護啓発ポスターコンクール」優秀賞1名 「読書感想文京都府コンクール」優秀賞1名、佳作2名</p> <p>&lt;第二大山崎小学校&gt; 「国際平和ポスターコンテスト」優秀賞1名 「全国教育美術展」佳作23名 「緑化ポスターコンテスト」佳作2名 「愛鳥週間ポスターコンクール」佳作2名 「京都新聞書き初め展」京都新聞販売連合会賞1名、さとう賞1名</p> <p>&lt;大山崎中学校&gt; (主なもの) 「中学校総合体育大会」(夏季大会の結果) 女子バレーボール部 乙訓大会優勝 女子ソフトテニス部 乙訓大会団体優勝、山城大会団体3位 (乙訓大会等の個人成績は未掲載) 「京都府吹奏楽コンクール」吹奏楽部 金賞 「税に関する作文」 京都府納税貯蓄組合連合会会長賞1名 「心の輪を広げる体験作文(内閣府)」 都道府県推薦1名 「京都府ものづくり教育フェア(家庭科作品)」 最優秀賞1名</p>		

成 果	<p>① 本町教育振興計画を踏まえ、日々の生活の中で大切にしたいことや9年間を通して醸成したい項目を統一して掲げ、各家庭へも啓発したことにより、これに基づき一貫性のある指導と協力が得られ、挨拶や時間を大切にするなどの項目をはじめ効果が上がっている。</p> <p>② 各種団体への作品応募を取り組むことにより、学習によって得た能力や特技の向上と一層の意欲喚起を図ることができた。また、応募結果や大会結果を児童生徒の前で伝達顕彰することで、更に効果が現れている。</p>
課 題 認 識	<p>① 教職員への周知や保護者への啓発をはじめ、学校教育だけではなく、保護者や地域住民を含め広く広報活動が必要である。</p> <p>② 教科内の時間において応募作品に取り組むことは難しく、家庭での課題学習となり、全員が取り組むことや作品へのアドバイスができない。特に令和2年度については夏季休業期間が短くなるため、応募作品への取り組みは一層厳しい状況である。</p>
評 価 委 員 の 所 見	<ul style="list-style-type: none"> <li>• リーフレット「大山崎っ子できます10」は9年間の見通しを意識し作成されているのが良い。また、達成するためにスモールステップで目当てを決め、啓発され、効果が確認されているとのことと喜ばしい。</li> <li>• 引き続き、「大山崎っ子できます10」を、保幼小連携で就学前児、保護者等にも啓発するなど、生涯学習課とタイアップして本町の子ども達の育成に総掛かりで取り組む機運の醸成に期待したい。 今後、児童生徒が「10」に近付いているのか検証したり、リーフレットの内容そのものを見直したりしながら推進されることを願う。アンケート結果を公表することにより啓発に繋がる。</li> <li>• 各大会等で優秀な成績を残されており、今後も継続した取組を期待したい。但し、これからの指導は教職員だけに任せるのではなく具体的支援の方向を検討されたい。</li> <li>• 各種作品募集や大会に積極的に参加され、児童生徒の励みにも自信にもなり得るので評価できる。多彩な募集全てには対応できないから、教育課程に取り込めるものを精選し、年度当初に位置付けておくと指導が可能となる。また、それ以外は個々に応募しても良いのではないか。</li> <li>• 作品応募の成績や活動の実績において、吹奏楽コンクールの金賞など、好成績を残されており、素晴らしい。今後も積極的に取り組み、好成績を期待する。</li> </ul>

令和元年度 指導の重点 における目標	【重点目標6】安心・安全で、いじめのない楽しい学校づくりの推進 安全な環境の中で、いじめのない楽しい学校生活が送れるよう家庭・地域と連携・協働した取組を進める。		
事務事業名	いじめ問題への取組	担当部署	学校教育課
事業実績	<p>1 「いじめ問題への取組の徹底」 全校児童生徒を対象とした3回（各学期1回）のいじめ問題調査 ・調査方法：アンケート及び面接調査による実態把握 （3回目は2回目調査における追跡調査と日常の観察等による実態把握） ・調査結果を学校評議員やPTA本部役員に説明 ・学校だより等を通して概要報告</p> <p>2 人権教育の学校の取組 ＜大山崎小学校＞人権週間の設定、学年毎の人権学習、学年集会 ＜第二大山崎小学校＞全校児童による人権集会、人権週間の設定、学年毎の人権学習 ＜大山崎中学校＞人権週間の設定、学年毎の人権学習、学年集会、教育相談の実施（6、11月）</p> <p>3 学校におけるいじめ防止基本方針の研修・実施（平成26年4月より実施）及び校内いじめ防止対策委員会の定期的な（ほぼ隔週）実施</p> <p>4 町いじめ防止対策推進委員会（専門職5人）、いじめ防止連絡協議会（乙訓の小中学校生徒指導主任）の実施</p>		
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケート及び面接による調査により、児童生徒の「いやな思いをした」という実態の把握や確認ができ、適切な指導をすることができた。</li> <li>・平成30年度に比べ、認知件数は減少している。</li> <li>・適切な対応により重大事態までには至らず終わることができた。</li> <li>・学校におけるいじめ防止基本方針に沿っての年度当初の確認や校内いじめ防止対策委員会の定期的な開催により、教員のいじめに関する意識が一層高まっている。</li> </ul>		
課題認識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・いじめ問題の重要性といじめはいつ起こるかわからないという認識のもと、教員の人権感覚を高めるとともに、いじめの未然防止、早期発見・早期対応をはじめ、いじめを許さない学校づくりへの組織的な取組の徹底が引き続き重要である。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症に関連した差別や偏見、いじめが生じないよう、発達年齢に応じた指導教育が求められる。</li> </ul>		
評価委員の 所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・乙訓地域では人権擁護委員による中学生対象の人権教室も実施されており、あらゆる教育活動での人権教育の推進を期待する。ただ、今年度実施予定だった中学校での人権教室が、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止になったことは残念である。</li> <li>・アンケート・追跡調査、面接、研修会等を行い、未然防止、早期発見・早期対応に努力された。ただ、全国ではいじめにより重大な事件になったというニュースが後を絶たない。今後も「いじめは、いつでもどこでも起きる」という認識がいるのではないかと。形骸化しないようにして、一人一人が自尊感情や自己</li> </ul>		

	<p>有用感が持てるような居場所作り、いじめを許さない学校作りに取り組んでいただきたい。</p> <p>但し、アンケートの時期は日々の指導に生かせるよう学期途中でできないか。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>• 教職員の気付く力…鋭い人権意識、学級経営力、児童生徒理解・生徒指導力の向上が鍵になる。</li><li>• チーム学校として、校内体制、スクールカウンセラーや関係機関との連携が日常的に行えるように意識してほしい。</li><li>• 非日常の中で、新型コロナウイルス感染症に関連した差別や偏見、いじめ防止等、意識して各学校のいじめ防止推進計画等に織り込んでおく必要がある。</li></ul>
--	--



令和元年度 指導の重点 における目標	<b>【重点目標2】一人一人を大切にした教育の実施</b> 特別支援教育、人権教育など一人一人を大切にした教育を推進し、その能力や可能性の伸長と実践的態度を育成する取組を推進する。		
事務事業名	特別支援教育推進事業	担当部署	学校教育課
事業実績	<p>① 特別支援学級の設置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大山崎小学校 3学級（知的：2学級、自閉症・情緒：1学級）</li> <li>・第二大山崎小学校 2学級（知的：1学級、自閉症・情緒：1学級）</li> <li>・大山崎中学校 3学級（知的：1学級、自閉症・情緒：1学級、肢体：1学級）</li> </ul> <p>② 通級指導教室の設置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大山崎小学校 通級児童数44名</li> <li>・第二大山崎小学校 通級児童数25名</li> </ul> <p>③ 個別の特別支援教育の充実 特別支援教育支援員（町単費）の配置</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大山崎小学校 4人</li> <li>・第二大山崎小学校 4人</li> <li>・大山崎中学校 2人</li> </ul> <p>④ 大山崎町教育支援委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大山崎町教育支援委員会総会（6月10日、10月28日、2月17日開催）</li> <li>・ // 就学前部会（6月10日、10月21日開催）</li> <li>・ // 在学部会（6月10日、7月11日、10月7日、11月29日、2月17日開催）</li> <li>・ // 特別支援教育推進部会は町主催の特別支援教育研修会と共催（研修会8月19日開催）</li> <li>・各幼稚園、保育所への参観（9月）</li> <li>・保護者との就学指導についての協議</li> </ul> <p>平成25年度から、教育支援委員会の審議結果を該当未就学児童の保護者に、より丁寧に経過説明と今後の就学指導をするため、従来の所属長等だけではなく、就学先校長や事務局も入り、保護者と就学指導の相談を行った上で、就学先を決定している。</p> <p>⑤ 特別支援学級「卒業・進級を祝う会」（2月12日実施）の取組</p>		
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援教育支援員の配置により町内小中学校の特別支援学級では、個々の児童生徒に個別に対応でき、学校生活面においても、情緒の安定につながった。また、学力向上にもつながってきている。</li> <li>・大山崎町教育支援委員会の審議結果等を該当未就学児童の保護者に関係機関の長等が入って伝えることにより、就学についてより深く丁寧に懇談することができ、就学先決定に参考となる協議ができた。</li> </ul>		
課題認識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・特別支援学校見解の児童の在籍や通常学級における特別な支援が必要となる児童生徒の在籍割合が多くなる中、どのような支援体制を確立し、どのような支援ができるかを認識し、実践する必要がある。</li> </ul>		

<p>評価委員の 所見</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 各校に知的障害及び自閉症・情緒障害、また、中学校においては、肢体不自由も含め、それぞれの学級が設置されていることは非常に評価できる。</li> <li>• 特別支援教育を実施する上で、保・幼・小・中の連携は重要であり、今後も連携を密にし、適切な指導が実施されることを期待する。</li> <li>• 両小学校に設置されている通級指導教室は、利用児童数も多く、その役割は重要である。通級指導教室の高校への拡大が始まる。大山崎中学校においては特別支援教育支援員の配置が行われ、評価するも、インクルーシブ教育の視点からも通級指導教室の設置が望まれる。</li> <li>• 「大山崎町教育支援委員会」の内容の充実を期待する。</li> <li>• 特別支援教育支援員の配置は、大変望ましい。ソフト面の「合理的配慮」の視点で更に人員増及び専門性のある人材が配置されるよう願う。</li> </ul>
---------------------	--

<p>令和元年度 指導の重点 における目標</p>	<p><b>【重点目標7】指導体制の充実</b> 指導方法の工夫改善、教育相談など、組織的な指導体制づくりを推進する。また、幼小中の連携・接続を踏まえた教育体制を推進する。</p>																						
<p>事務事業名</p>	<p>適応指導教室事業</p>	<p>担当部署</p>	<p>学校教育課</p>																				
<p>事業実績</p>	<p>① 大山崎町適応指導教室「たけのこ教室」について                  &lt;設置の目的&gt;                  大山崎町立小中学校に在籍する不登校児童生徒の自立を促し、学校への適応を図るため、適応指導教室「たけのこ教室」を設置する。                  &lt;設置場所及び開設日時&gt;                  場 所：大山崎町立中央公民館                  開室日時：毎週火・水・金曜日 午前9時30分から正午まで                  （祝日・長期休業日を除く）                  &lt;指導体制&gt;                  適応指導教室指導員2名、教育相談員（臨床心理士・社会福祉士）3名</p> <p>② 取組内容                  &lt;運営会議&gt; ※主な協議内容                  第1回（ 4月10日）指導内容・業務内容・環境整備                  学校との連携について                  第2回（ 8月 6日）1学期の総括について                  通室児童生徒の状況と今後の対応について                  第3回（ 8月21日）体験学習について・2学期の運営について                  第4回（ 1月15日）2学期の総括、3学期の運営について                  第5回（ 3月11日）今年度の総括、次年度の運営について                  &lt;小中連絡会議&gt; ※運営会議メンバー+各校より2名                  第1回（ 4月10日）「たけのこ教室」の運営について                  不登校児童生徒の状況について                  第2回（ 8月 6日）1学期の「たけのこ教室」の状況について                  室児童生徒の状況と今後の対応について</p> <p>&lt;入室状況&gt; (単位：人)</p> <table border="1" data-bbox="443 1552 1366 1641"> <thead> <tr> <th>小1</th> <th>小2</th> <th>小3</th> <th>小4</th> <th>小5</th> <th>小6</th> <th>中1</th> <th>中2</th> <th>中3</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>2</td> <td>4</td> </tr> </tbody> </table> <p>&lt;基本的な指導内容&gt;                  朝の会、学習①、学習②、自由活動、終わりの会                  &lt;体験学習・社会見学&gt;                  6月19日（水）「町体育館へ行こう」（卓球・バドミントン）                  7月10日（水）「そうめん、卵焼きを作ろう」                  8月21日（水）「焼きそばを作ろう」                  11月26日（火）「町体育館へ行こう」（卓球・バドミントン）                  12月18日（金）「ホットケーキを作ろう」                  2月14日（金）「陶芸をしよう」                  3月11日（水）「卒業・進級をお祝いしよう」</p>			小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	合計	0	1	0	0	1	0	0	0	2	4
小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	合計														
0	1	0	0	1	0	0	0	2	4														

<p>成 果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• たけのこ教室開室にあたり、運営会議や小中連絡会議において運営方針や指導内容、教室環境の整備等を協議し、共通認識をもって教室運営にあたることができた。</li> <li>• 通室にあたって、保護者や児童生徒本人との面談をとおして、通室内容や通室日するなど、個々の状況やニーズに応じた通室の仕方を確認しながら通室を進めることができた。</li> <li>• 指導員や教育相談員による毎日の記録をもとに、毎月のたけのこ教室での出席状況や様子について報告書を作成し、児童生徒の頑張りや課題を各学校と共通認識することができた。また、学校でのケース会議や保護者面談に参加し、不登校改善に向けて連携することができた。</li> </ul>
<p>課 題 認 識</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 学校との連携をさらに密にするために、次年度は学校との定期的な連絡会議をより多く設定する。</li> <li>• これまで、児童生徒の中には、しばらくは通室できていたが突然できなくなったケースや、保護者による申し込みはあったが、一度も通室できていないケースがあった。本人や保護者への働きかけの方法などについて、学校と共通理解のもと検討していく必要がある。</li> <li>• 通所人数イコール本事業の成果ではないが、不登校児童生徒の一部のみの利用にとどまっている現状は事実であり、本人や保護者への働きかけの方法などについて、学校と共通理解のもと検討していく必要がある。</li> </ul>
<p>評 価 委 員 の 所 見</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 大山崎町立小中学校に在籍する不登校児童生徒の自立、学校への適応を促す適応指導教室が組織的に運営されたことは、素晴らしい。</li> <li>• 年度が変われば不登校児童生徒もデータとして上がってくる人数には増減があるが、保護者や児童生徒本人との面談を実施し、個々の状況やニーズに応じた通室の仕方を検討されたことは、評価できる。</li> <li>• せっかく通室できていた児童生徒が、突然通室できなくなる・一度も通室しないことは残念ではあるが、当然あり得ることと受け止め、本人や保護者へ適切に働きかけられたい。通室にこだわらず、家庭訪問による指導等も検討できないか。</li> <li>• 「たけのこ教室」が不登校児童生徒の自立を促すために設置されたことは、学びの機会均等・保障の点からも評価できる。社会問題化している大人の引きこもりのことも頭に浮かぶので、今後、関係機関と連携しながら中学校生徒の進路保障に繋ぐ等の内容の充実を望む。</li> </ul>

令和元年度 指導の重点 における目標	【重点目標4】 健やかな身体の育成と体力の向上 生き生きと逞しく生きるため、体育・スポーツ活動に親しむ習慣や望ましい食習慣をはじめ、健康的な生活を実践する態度を養う。		
事務事業名	小学校給食	担当部署	学校教育課
事業実績	<p>① 学校給食実施 実施児童数 836人（令和元年5月1日現在） 米飯給食 週4回実施</p> <p>② 安心・安全な給食を実施するための衛生管理及び食中毒防止対策 給食施設の監視指導及び給食調理員・栄養教諭（職員）を対象に衛生研修会を実施。また、給食室害虫駆除、調理従事員等保菌検査等を実施。</p> <p>③ 学校給食調理等業務委託実施（全小学校）</p>		
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校給食の給食調理員・栄養教諭（職員）を対象とした衛生研修会では、スライドを使用した研修を実施し、給食調理員・栄養教諭（職員）の衛生管理の意識向上を図ることができた。</li> </ul>		
課題認識	<ul style="list-style-type: none"> <li>既存給食施設を改修し、学校給食衛生管理基準にいかに対応させるかが大きな課題である。</li> <li>調理業務を年間委託する中で、新型コロナウイルス感染症の感染症予防対策として実施した学校臨時休業にともなう給食の停止期間について、委託料支払い金額の調整で協議が生じた。今後の業務委託契約中の位置づけが課題となった。</li> </ul>		
評価委員の見所	<ul style="list-style-type: none"> <li>両小学校とも給食施設の老朽化は甚だしい。学校給食衛生管理基準に適合した施設とするために無駄のない改修計画を早急に検討されたい。</li> <li>栄養教諭による食育の指導も重要な役割を担っており、研修等も含め今後も継続されたい。</li> <li>今後も適切なアレルギー対応等が施された安心・安全な給食提供を望む。</li> <li>令和2年度はすでに2か月の学校臨時休業となっており、今後も想定される事態への対応を考慮し業務委託契約の内容を検討されたい。</li> </ul>		

令和元年度 指導の重点 における目標	<b>【重点目標8】教育効果をあげる教育環境の充実</b> 学校施設を整備・充実し、質の高い教育が効果的に実施される環境づくりを推進する。		
事務事業名	小中学校給食施設整備事業	担当部署	学校教育課
事業実績	中学校給食の自校式給食施設の前段として、両小学校において自校式を維持したまま学校給食衛生管理基準に適合した給食施設整備が実現できるか、またその実現方法、経費等について調査・検討を行った。		
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大山崎小学校において3案、第二大山崎小学校において3案の検討を行い、このうち大山崎小学校2案、第二大山崎小学校3案について、学校給食衛生管理基準に適合する施設整備が実現可能との結論に至った。</li> <li>・上記の案それぞれについて、概算費用や概算工期、学校に生じる影響などを整理することができた。</li> </ul>		
課題認識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校給食施設は現に学校給食衛生管理基準に適合しておらず、また老朽化も進んでおり、この改善が急がれる。</li> <li>・中学校給食は多くの生徒、保護者が望んでおり、できるだけ早期の実現が望まれる。</li> </ul>		
評価委員の 所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校給食は、当初令和2年9月実施の予定であったが、給食提供の方針が変更されたことに伴い、大幅に遅れている。多くの関係者が早期実施を望まれており、実現への道を早急に検討されたい。</li> <li>・近隣市では、中学校給食が始まっている。「学校施設を整備・充実し、質の高い教育が効果的に実施される環境づくりを推進する。」とある重点目標8の早期実現を望む。</li> </ul>		

<p>令和元年度 指導の重点 における目標</p>	<p><b>【重点目標5】信頼を高める学校づくりの推進</b> 家庭や地域社会と連携・協働して、信頼に応える学校づくり、開かれた学校づくりを推進する。</p>		
<p>事務事業名</p>	<p>教師力向上事業</p>	<p>担当部署</p>	<p>学校教育課</p>
<p>事業実績</p>	<p>① 大山崎町学力向上対策会議 児童生徒の学力の充実・向上を目指し、町学力向上対策会議（担当校長、担当教頭、各校教務主任、学力向上担当、指導主事で構成）を年3回実施した。 各校の府学力診断テスト（小4、中1・2）、全国学力・学習状況調査（小6、中3）及び標準学力調査（小2・3・5 町費負担）の分析を行い、成果と課題を交流し、小中学校間の系統的な課題克服に向けた方策の検討と実践や、小中連携の研修会に取り組んだ。</p> <p>② 大山崎町小中連携事業 本研修会は、小中連携会議で企画・立案し、小中の円滑な接続、児童生徒の実態交流、授業実践力や生徒指導力の向上について研修を実施した。 〈中学校授業公開〉 開催日：6月19日（水） 会場：大山崎中学校 内 容：公開授業参観 〈小中連携研修会〉 開催日：8月19日（月） 会場：大山崎中学校 内 容：生徒指導・教育相談等について小中連携の観点でグループ協議 〈中学校での体験授業〉 開催日：12月3日（火） 会場：大山崎中学校 内 容：小学校6年生のための中学校部活動体験 〈小学校授業公開〉 開催日：2月20日（木） 会場：第二大山崎小学校 21日（金） 会場：大山崎小学校 内 容：公開授業参観</p> <p>③ 町立小・中学校新規着任教職員研修会 開催日：8月5日（月） 参加人数：13名 内 容：午前は、新規教職員対象の研修会 午後は、新規教職員と着任教職員対象に、大山崎町の歴史についての講話と、その後は大山崎町内の史跡名所等の現地学習</p> <p>④ 町特別支援教育研修会 開催日：8月19日（月） 参加人数：約80名 目 的：通常学級の担任等が、発達障がいの可能性のある児童生徒に対して、正しい理解を図るとともに、その具体的な指導方法について学ぶ。 講 師：京都府スーパーサポートセンター府専門家チーム 元小学校長</p> <p>⑤ 指導主事・教育委員学校訪問 町「学校教育の重点」の趣旨の実現に向けた教育活動の充実を図るため、各学校の課題について必要な指導助言を行うことを主な目的として、「指導主事・教育委員学校訪問」を1学期に町内全小・中学校で実施した。全学年・学級での公</p>		

事業実績	<p>開授業を参観し、人材育成、指導力向上の観点で指導助言を行った。</p> <p>開催日：7月 4日（木） 大山崎小学校 6月 12日（水） 第二大山崎小学校 6月 5日（水） 大山崎中学校</p> <p>内 容：一般授業参観、授業に対しての指導助言</p>
成 果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中連携研修会では、小中の円滑な接続、児童生徒の実態交流、授業実践力や生徒指導力の向上をテーマに、取組を実施した。各校の取組の様子を交流したり、実際に児童生徒の状況を参観したりすることを通して、それぞれの学校の状況を把握したり、望ましい連携・接続について深めることができた。</li> <li>・本町では、昨年度まで教職員の道徳研修会を十数年間継続してきたが、本年度は小中学校の喫緊の課題である発達障がいテーマとした研修会を開催した。その取組の成果として、一斉指導だけでなく、個々の児童生徒の特性を正しく知り、授業を展開する姿勢が高まった。</li> </ul>
課 題 認 識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・若手教職員が増えていく中、ミドルリーダー及び若手教職員の育成と授業力向上に向けた研鑽が今後の課題である。</li> <li>・不登校の増加や発達課題のある児童生徒の対応などが課題となっている。効果的な研修となるよう、内容を再検討していく必要がある。</li> <li>・令和2年度はGIGAスクール構想に基づく児童生徒1人1台端末の導入を予定しており、教師1人1人がICT機器を活用できるよう知識・技能の向上が求められる。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の第2波、第3波により再度の学校臨時休業となった際を想定し、遠隔授業等の新たな授業方式を模索する必要がある。</li> </ul>
評価委員の 所 見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小中の円滑な接続、児童生徒の実態交流等、これまで以上に小中連携が充実することを期待する。また、保幼小の連携の重要性に鑑みて、幼稚園指導要領、保育指針、学習指導要領等の相互学習会・「大山崎っ子できます10」等も含め、合同研修会も考えられないか。</li> <li>・新規採用教職員・着任教職員研修は、児童生徒と「大山崎町」を学ぶ上で欠かせない意義あることであり、今後も継続して実施されることを望む。</li> <li>・教職員の世代交代が進む中、授業力(指導技術)の継承、新学習指導要領に向けた工夫改善、危機管理意識等の特にミドルリーダーや若手の人材育成が急務である。次年度は府教委(乙訓局)教師力向上アドバイザーも活用し若手教員のフォローアップを図る等有効活用を期待する。</li> <li>・教師力というととかく、学力・授業に視点がいくが、そのベースとなる児童生徒理解、生徒指導、学級経営の中で児童生徒に居心地の良い場所を創り出す力の育成を望む。特別支援・人権等の実践的指導力や人間性・社会性といったソフト面の教師力も重要視したい。</li> <li>・児童生徒に望む新しい時代に対応できる力は教職員にも期待されている。教育課題も多い中、今後もキャリアステージに応じたキャリアアップ計画を立てさせ、OJTを含め意識的に実践的指導力の向上を図る必要がある。今後、研修にweb活用や自主的な教員研修等のできる環境が準備されると良い。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の感染拡大によるリモート授業が実施されることも想定し、生徒一人1台端末の導入なども踏まえ、その対応について研修されたい。</li> </ul>



- |  |   |
|--|---|
|  | <ul style="list-style-type: none"><li>• 次年度の GIGA スクール構想や英語推進の小中高に係る地域指定に期待したい。</li><li>• 京都府教育委員会の「求められる京都府の教員像」「京都府教員等の資質能力の向上に関する指標」も活用されたい。</li><li>• 各校の講師も多く、教育の質の向上を願う上で研修の必要性を感じる。</li><li>• 「教育は人なり」教師力の向上がチームとして協働する学校力の向上に繋がる。</li></ul> |
|--|---|

令和元年度 指導の重点 における目標	【重点目標6】安心・安全で、いじめのない楽しい学校づくりの推進 安全な環境の中で、いじめのない楽しい学校生活が送れるよう家庭・地域と連携・協働した取組を進める。		
事務事業名	子どもの安心・安全に関する事業	担当部署	学校教育課
事業実績	<p>◇通学路の安全対策 大山崎町通学路安全推進会議の実施 【実施日】10月31日(木) 【参加関係機関】近畿地方整備局、京都国道事務所、乙訓土木事務所、向日町警察署、見守り隊代表、PTA代表、校長会代表、乙訓教育局、建設課、経済環境課、政策総務課、教育委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>通学路における対策必要箇所の進捗状況の確認と新規対策必要箇所の選定(交通安全面:継続10箇所、新規1箇所)(防犯面:継続4箇所)をした。また、合同点検を行い、対策必要箇所の現場確認を実施した。</li> </ul>		
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>通学路安全推進会議を開催し、対策必要箇所の状況把握や合同点検を通して、安全対策及び防犯対策に向けて関係諸機関と連携することができた。</li> </ul>		
課題認識	<ul style="list-style-type: none"> <li>年間を通した子ども安全見守り隊、PTAによる安全指導の継続的な取組、交通指導員の通年配置、青色パトロール車による防犯活動等、ソフト面では地域ぐるみで連携した安全・安心の確保が浸透しているが、道路事情の変化に対応した更なる取組が必要である。今後も関係機関が連携しての継続的な確認と点検、対策の取組が必要である。また、日常を通しての防災、防犯対応も含めた更なる安全教育も必要不可欠である。</li> <li>毎年、通学安全推進会議を実施し、今後の町内道路状況の変化に合わせ危険箇所の抽出、また必要な安全対策及び防犯対策を検討する必要がある。</li> <li>中学校部活後の下校、小学校学童保育後の下校、小学校放課後子供教室後の下校について、冬季は日没後の時間となるため、生涯学習課とも連携のうえ、地域での見守り等なんらかの安全対策が求められる。</li> </ul>		
評価委員の 所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>雨の降りかたや夏の体温を超えるような高温等、近年は自然環境が以前に増して厳しくなっている。このような変化に遅れることのないよう、普段から備えを十分に行い、家庭・地域・行政が連携し、児童・生徒の安全を確保するよう努められたい。</li> <li>児童生徒自身に事故・事件・災害等から学び、防犯・防災「自分の身は自分で守る」指導も期待する。</li> <li>生涯学習課とも連携し、近隣住民を含め地域全体での見守りを期待する。</li> </ul>		

令和元年度 指導の重点 における目標	<b>【重点目標7】指導体制の充実</b> 指導方法の工夫改善、教育相談など、組織的な指導体制づくりを推進する。また、 保幼小中の連携・接続を踏まえた教育体制を推進する。		
事務事業名	幼稚園就園奨励事業	担当部署	学校教育課
事業実績	① 大山崎町私立幼稚園就園奨励費補助金（9月までが対象。10月からは幼児教育無償化事業に移行） 保護者の町民税の所得割課税額に応じて補助金を交付 （園児158人、総額10,084,200円） ② 大山崎町私立幼稚園児教材費補助金 10月1日現在、私立幼稚園に在園している満3歳以上の園児の保護者全員に交付 保護者に園児1人あたり42,000円 （園児196人、総額8,232,000円） ③ 大山崎町私立幼稚園設備費補助金 町内私立幼稚園に設備、備品の購入に要する経費に対し補助金を交付 （実績総額210,000円） ④ 大山崎町乙訓私立幼稚園協会研究補助金 協会が行う教育研究事業を実施するための経費を対象に補助金を交付 （乙訓私立幼稚園協会、総額65,000円） ⑤ 第3子無償化事業 多子世帯の保護者の経済的負担を軽減するために補助金を交付 （対象園児5人、総額256,900円） ⑥ 私立幼稚園副食費補足給付事業（令和元年度10月から実施） 私立幼稚園副食費補足給付事業（対象園児11人 151,080円） ⑦ 子育てのための施設等利用給付事業（令和元年度10月から実施） 子育てのための施設等利用給付事業（対象園児192人（月平均） 27,729,950円）		
成果	① 私立幼稚園児の保護者の経済的負担を軽減することができた。また、引き続き第3子無償化事業を実施し、多子世帯の保護者の経済的負担を軽減し、安心して子どもを産み育てられる環境づくりに繋がった。 ② 大山崎町私立幼稚園設備費補助金を交付することより、私立幼稚園の設備、備品の整備を促進することができた。 ③ 幼稚園教諭の研修会等の実施経費を補助するなどの支援を行うことにより、幼児教育の振興を図ることができた。		

<p>課題認識</p>	<p>国の基準で交付している私立幼稚園就園奨励費補助金は、幼保無償化により令和元年10月から子育てのための施設等利用給付事業に移行したが、町の負担は引き続き大きい状況にある。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 26年度私立幼稚園就園奨励費補助金 総額24,710,400円 (国庫補助金6,141,000円 町単費18,569,400円)</li> <li>• 27年度私立幼稚園就園奨励費補助金 総額24,190,800円 (国庫補助金7,038,000円 町単費17,152,800円)</li> <li>• 28年度私立幼稚園就園奨励費補助金 総額22,386,000円 (国庫補助金6,854,000円 町単費15,532,000円)</li> <li>• 29年度私立幼稚園就園奨励費補助金 総額23,321,200円 (国庫補助金7,403,000円 町単費15,918,200円)</li> <li>• 30年度私立幼稚園就園奨励費補助金 総額22,880,300円 (国庫補助金7,601,000円 町単費15,279,300円)</li> <li>• 令和元年度私立幼稚園就園奨励費補助金(4月～9月) 総額10,084,200円 (国庫補助金3,361,000円 町単費6,723,200円)</li> <li>• 令和元年度子育てのための施設等利用給付事業(10月からスタート) 総額27,729,950円(概算交付として国庫交付金16,962,000円、府交付金8,481,000円、初年度に係る国の臨時交付金5,385,000円)</li> </ul>
<p>評価委員の所見</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 10月からの幼児教育無償化事業においても、町の財政負担は変わらないとのことであり、国庫補助率が引き上げや交付金の交付が引き続き受けられるよう国に要望する必要がある。</li> <li>• 子どもの貧困が教育に悪影響を与えていることが、社会問題化していることに鑑み、今後も経済的な支援が継続されることを期待する。</li> <li>• 幼児教育の無償化への理解を利用者に啓発する必要がある。</li> </ul>

令和元年度 指導の重点 における目標	<b>【重点目標8】教育効果をあげる教育環境の充実</b> 学校施設を整備・充実し、質の高い教育が効果的に実施される環境づくりを推進する。		
事務事業名	学校施設・整備事業	担当部署	学校教育課
事業実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大山崎小学校管理棟屋上防水修繕</li> <li>・大山崎小学校手洗い場排水管修繕</li> <li>・大山崎小学校南校舎手洗い場排水管修繕</li> <li>・大山崎小学校教室間仕切り工事</li> <li>・大山崎中学校介護リフト整備</li> </ul>		
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校施設の老朽箇所の改修を実施し、児童が安全で安心して学ぶことのできる教育環境の整備を図ることができた。</li> <li>・支援を要する中学校生徒の入学にあわせ、トイレを使用する際に使用できる介護リフトを整備した。</li> </ul>		
課題認識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小学校施設は建築年数が40年以上と相当経過しており、改修を要する部分が散見される。令和元年度も複数個所の修繕対応が必要となった。</li> <li>・児童が安心して学校生活を送ることができるよう計画的な教育環境の整備が必要である。</li> <li>・多様化する社会的ニーズを捉え、施設機能の充実を検討する必要がある。</li> <li>・両小学校の特別教室への空調設置が、令和元年度二度の入札不調により叶わなかったため、再度国庫補助を活用しこの実現を目指す必要がある。</li> <li>・令和元年度に設計を行った町立小学校外壁等改修設計に基づき、両小学校（特に劣化が進んでいる第二大山崎小学校）の外壁等改修をはじめとする長寿命化を急ぐ必要がある。</li> </ul>		
評価委員の 所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度策定された大山崎町学校施設長寿命化計画に基づき、施設改修を着実に実施されたい。</li> <li>・策定計画の中にいつ計画されているかはわからないが、良好な教育環境を保つため、外壁の改修、教室の内装改修等積極的に改修に取り組んでいただきたい。</li> <li>・中学校においては、築後年数も浅く大幅な改修工事は必要ないが中長期的な施設保全を計画されたい。</li> <li>・合理的配慮に基づく、施設整備等すぐに対応できている。</li> <li>・築年数が経てば改善・改修箇所が増えることも予想される上に、給食施設・設備の建設もある。社会教育関係の公民館等のこともある。町の施設の管理を担当している政策総務課管財係と技術部門について連携できないか。</li> </ul>		

<p>令和元年度 指導の重点 における目標</p>	<p><b>【重点目標11】地域社会の教育力の向上</b> 学校・家庭・地域社会が連携・協働し、社会総がかりで子どもを健全にはぐくむ環境づくりを推進する。</p>		
<p>事務事業名</p>	<p>ときめきチャレンジ推進事業</p>	<p>担当部署</p>	<p>生涯学習課 (生涯学習・スポーツ振興係)</p>
<p>事業実績</p>	<p>&lt;放課後子ども教室&gt; 【土曜日開催】</p> <p>① 6月15日 正しい手洗いで和菓子体験 参加者：18名 協力：笹庵 林 正幸 氏（乙訓食品衛生協会）</p> <p>② 7月 6日 UP!UP!「ヨガレッチ」トレーニング! 参加者：24名 協力：NPO 法人サニースポーツクラブ京都 長谷川 好子 氏</p> <p>③ 9月14日 空育®「JAL 折り紙ヒコーキ教室」 参加者：45名 協力：日本航空株式会社の皆様</p> <p>④ 10月26日 竹細工体験 参加者：23名 協力：大山崎竹林ボランティアの皆様</p> <p>⑤ 11月16日 じぶんだけのキャンドルを作ろう! 参加者：25名 協力：京都芸術大学付属高校美術部の皆様</p> <p>⑥ 12月14日 凧作り&amp;凧あげ 参加者：24名 協力：ときめきチャレンジ推進事業運営委員</p> <p>⑦ 1月18日 ケーキづくり体験 参加者：27名 協力：プチ・ラパン 友田 成生 氏（乙訓食品衛生協会）</p> <p>⑧ 2月15日 和太鼓体験 参加者： 9名 協力：和太鼓 つくどんの皆様</p> <p>【平日開催】 ※いずれも（水）</p> <p>◇プログラミング教室 協力：プログラミングネットワーク京都 蘆田 昇 氏、安藤 実紀子氏 場所：大山崎小学校 ① 10月30日 参加者：22名 ② 11月 6日 参加者：21名 場所：第二大山崎小学校 ① 12月11日 参加者：23名 ② 12月18日 参加者：19名</p> <p>◇料理教室 場所：第二大山崎小学校 協力：森 かおる 氏 参加者：① 1月22日 20名 ② 1月29日 22名 ③ 2月12日 21名</p> <p>◇将棋教室 場所：大山崎小学校 協力：田中 利和 氏 参加者：① 2月19日 19名 ② 2月26日 19名 ③ 3月 4日 （中止） ※ ③は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止</p>		

	<p>【英語交流会・図書室開放】</p> <p>場所：大山崎小学校（水） / 第二大山崎小学校（木）</p> <p>① 6月19日 30名                      7月 4日 32名</p> <p>② 9月 4日 28名                      9月19日 31名</p> <p>③ 11月27日 29名                    11月21日 32名</p> <p>④ 12月18日 24名                    12月 5日 30名</p> <p>⑤ 1月29日 25名                      1月23日 30名</p> <p>⑥ 3月 6日（中止）                  2月27日 32名</p> <p>※ 大山崎小学校⑥の英語交流会は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため中止</p> <p>&lt;地域未来塾&gt;</p> <p>◇ちょっと塾</p> <p>場所：大山崎中学校</p> <p>9月18日～2月17日のうち月曜日もしくは水曜日、計15日実施</p> <p>参加者延べ：42名</p> <p>&lt;その他&gt;</p> <p>4月20日 人形劇とブックフェア</p> <p>参加者：60名 協力：竹の子文庫、おぐら文庫</p>
成 果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土曜日および平日の体験活動には今年も延べ700名近い児童が参加し、土曜日や放課後の時間を活用して子どもの居場所づくりと地域ぐるみでの教育が実現できた。</li> <li>・平成30年度からは、英語交流会に国際交流員を置き、ホストタウン事業の周知や国際交流への関心につなげることができた。</li> <li>・令和元年度から放課後子ども教室のオンライン受付を開始した。過半数の申込みをオンライン経由で受付しており、申込者の利便性の向上、係員の電話対応の時間短縮にもつなげることができた。</li> <li>・令和元年度から新たに「地域未来塾」を実施し、中学校における地域住民等による学習支援を実現した。</li> </ul>
課 題 認 識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育活動サポーターの導入により、平日活動の拡大に伴う人材不足をある程度補うことはできたが、まだ登録数は多くない状況であり、引き続き人員の確保が必要となる。</li> <li>・現在事務局が事業の準備等をしている状況であるが、今後も活動を広げる上で、より住民主体で運営できないかという点も検討したい。</li> </ul> <p>&lt;地域未来塾について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学生等の比較的若い学習支援員の確保、登用を目指したいが、人材確保が課題である。</li> <li>・クラブ活動と競合し、参加しにくい状況がある。</li> <li>・より参加者数を増やすため、生徒へのアプローチの方法に改善の余地があると考えられる。</li> </ul>

<p>評価委員の 所見</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 社会教育団体との連携により、様々な企画を立案・実施されていることは評価できる。</li> <li>• 教育活動サポーターの導入により、平日活動が拡大されたことは喜ばしいことであるが、放課後児童クラブとの一体型の取り組み方に十分な検討と工夫をお願いしたい。</li> <li>• 新たに中学生を対象として地域未来塾が開設されたことは、素晴らしい。ただ、クラブ活動をやっている生徒は参加しにくい、という側面があり、難しい課題である。</li> <li>• 英語交流会はタイムリーな活動である。国際交流員の活用も有効であった。</li> <li>• 教育活動サポーターの導入は非常に評価したい。保険・報酬等の予算が必要かもしれないが、地域学校協働活動にも繋がる。</li> <li>• サポーターは登録を待つのではなく公民館等の講座で育成して、登録してもらうのもいいかもしれない。</li> <li>• 参加者が増えれば事務局に変わるコーディネーター的役割を担う教育サポーターの必要性を感じる。</li> </ul>
---------------------	--



令和元年度 指導の重点 における目標	【重点目標10】家庭の教育力の向上 家庭教育の自主性を尊重しつつ、教育の出発点である家庭の教育力を高めるための支援を推進する。		
事務事業名	子育て講座事業	担当部署	生涯学習課 (生涯学習・スポーツ振興係)
事業実績	<p>豊かな心をはぐくむ家庭の教育力を高めるための学習機会とすることを趣旨とし、子育て講座を実施した。</p> <p>令和元年度子育て講座「親子でハッピークッキング」 内容：親子でのピザ作りの後、子育てと食育に関する講話を行った。 場所：中央公民館 参加者：10名（大人5名 こども5名） 講師：スマイルプレイス代表 幸山 由佳 氏</p> <p>※このほか、「親育ネットおとくに」協議会に参画し、職員が年間を通じて会議やイベントに参加している。</p>		
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>親子での調理体験を通じて、親子が向き合える機会の提供、より良い関係づくりに資することができた。</li> <li>講師の助言もあり、子どもたちが主体的に調理に取り組むことができていた。</li> </ul>		
課題認識	<ul style="list-style-type: none"> <li>予算や会場の関係で、限られた定員の中で最大限の効果を得る取組内容を、今後も引き続き検討する必要がある。</li> <li>親子でうまくコミュニケーションが取れていないといった、真に助けが必要な家庭に参加してもらえるよう、アプローチの方法の検討が必要である。</li> </ul>		
評価委員の 所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>親子での調理体験を通じて、親子が向き合える機会が提供されたことは嬉しいことである。社会教育として、家庭の教育力を高める努力をされていることを評価する。新型コロナウイルス感染症の関係で調理は難しいかもしれないが、引き続き家庭のニーズに合った講座を期待する。</li> <li>今後も家庭の教育力の向上のための良い機会を提供できるよう、取組を充実させてほしい。そのためには、予算の確保も重要である。</li> <li>今後、図書室等も「重点目標13 社会教育施設の活用」だけでなく「重点目標10 家庭の教育力の向上」の施策を担えないか。</li> </ul>		

令和元年度 指導の重点 における目標	<b>【重点目標12】人権教育・啓発の推進</b> 一人一人の人権が尊重される社会の実現に向け、人権意識を高め人権感覚を身に付ける取組を推進する。		
事務事業名	人権教育・啓発の推進事業	担当部署	生涯学習課 (生涯学習・スポーツ振興係)
事業実績	<p>本町では、様々な人権問題についての理解と認識を深めるための町人権教育研修会をはじめとするイベントを開催するとともに、人権週間や人権強化月間における街頭啓発の実施など、多様な機会・場を活用した教育、啓発活動に努めている。</p> <p>令和元年度 大山崎町人権教育研修会(夏季) 8月21日(水) 演題:「違いを認め合える社会を目指して～『ほんとの空』より～」 場所:中央公民館 参加者:62名 講師:京都府乙訓教育局社会教育主事兼指導主事 大西早映子 氏</p> <p>令和元年度 大山崎町人権教育研修会(冬季) 12月11日(水) 演題:「大人の発達障害」 場所:中央公民館 参加者:81名 講師:NPO 法人 DDAC 発達障害を持つ大人の会代表 広野ゆい 氏</p>		
成果	<p>夏季研修では福島原発事故の風評被害に係る人権問題、冬季研修では発達障害への無理解による人権問題について、それぞれ正しく認識し、豊かな人権感覚を養うことができた。夏季の参加型研修では、自発的な学習となり一層の人権意識の高揚が図られ、冬季研修では今日的なテーマに参加者の関心も高く、メモを取る等熱心に講師の体験談を聴いて、大人の発達障害への理解を深めることができた。</p>		
課題認識	<p>すべての“人権問題”の解決に向け、人権尊重を日常生活の習慣として身に付けるために、今後も継続的に学ぶ機会を提供するとともに、一層啓発活動を充実させ、より多くの参加を目指す必要がある。</p>		
評価委員の 所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 毎年8月の人権強化月間に合わせて開催されている本事業は、人権問題を考える良い機会となっており、今後も継続して実施されたい。</li> <li>• 新型コロナウイルス感染症の感染拡大が続く中、そのことによる人権問題が話題となっているがその対応など、多くの学習機会を設けて人権啓発に努められたい。</li> <li>• 人権問題をいろいろな切り口から考えることは大切であり、研修会を年2回と固定せず、多くの学習機会を設けて人権意識の高揚に努められたい。また、参加者の裾野を広げることも必要か。</li> <li>• 各学校のPTA研修の中に「人権研修会」が位置付いているか。さらに、この事業を学校教育との連携で進められないか。</li> </ul>		



令和元年度 指導の重点 における目標	<b>【重点目標9】生涯学習の振興</b> 生涯にわたって、多様な学習活動に取り組み、住民一人一人が「生涯をとおして、理解し合い、学び合うまち」づくりを目指して、学び続けることのできる学習環境の整備・充実に努める。		
事務事業名	大山崎町成人式事業	担当部署	生涯学習課 (生涯学習・スポーツ振興係)
事業実績	第67回大山崎町成人式 令和2年1月13日(月・祝) 開会の辞、国歌・町歌斉唱、式辞、祝辞、くす玉割り、新成人の誓いの言葉、祝電、閉会の辞、集合写真 会場：大山崎町体育館 スタッフ 前日10名 / 当日18名 第2部実行委員 応募者なし 商工会マスコットキャラクター(着ぐるみ) ララン出演 町内新成人：対象137名 出席97名 出席率70.8% 町内外合わせた出席数 男48名 女60名 総数108名 記念品：①アサヒビール大山崎山荘美術館の招待券 ②今治製大山崎町章タオル(特定非営利活動法人 大山崎町地域活動支援センターやまびこが封入) ・誓いの言葉発表者は、中学校3年生当時の学年主任と担任の先生と相談し、候補者(男・女)に直接依頼		
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>くす玉割りやララン(着ぐるみ)の出演など、大山崎町らしい温かな成人式を実施することができた。</li> <li>会場を乱すような参加者はおらず、円滑に執行することができた。</li> <li>記念品「今治製大山崎町章タオル」の封入作業を大山崎町地域活動支援センターやまびこに依頼。町内の障がい者の自立(就労)と社会参加を促進することができた。</li> </ul>		
課題認識	<ul style="list-style-type: none"> <li>課を横断してスタッフがかかわる為、準備や運営等について、最終確認と情報の共有が不可欠。</li> <li>来場時は集中して混雑するため、一時的にスタッフの人数に余裕がなくなる。</li> <li>参加者増のための工夫が必要。</li> </ul>		
評価委員の 所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>中学校で学んだ頃と同窓会的な役割も担っており、参加してよかったと思えるような事業の実施が望まれる。第2部のスタッフ応募者について、毎年応募者があるかどうかの心配がついて回ることになる。第2部のやり方を再検討する必要があるのではないかと。</li> <li>成年年齢が、令和4年4月から、現行の20歳から18歳に引き下げられる。その時の在り方も早くから検討していく必要がある。</li> </ul>		

令和元年度 指導の重点 における目標	<b>【重点目標9】生涯学習の振興</b> 生涯にわたって、多様な学習活動に取り組み、住民一人一人が「生涯をとおして、理解し合い、学び合うまち」づくりを目指して、学び続けることのできる学習環境の整備・充実に努める。		
事務事業名	男女共同参画事業	担当部署	生涯学習課 (生涯学習・スポーツ振興係)
事業実績	<p>本町では、男女共同参画社会基本法に基づき平成17年3月に「みとめ愛プラン」(男女共同参画計画)を策定し、第2次・第3次計画と見直しを行うとともに、町広報誌、町ホームページを通じた啓発活動に努めている。</p> <p>令和元年度は、「大山崎町男女共同参画計画懇話会」を開催し、「みとめ愛プラン」中の数値目標や各課の進捗状況を確認するとともに、男女共同参画に関する調査等を参考資料として意見交流を行った。</p> <p>「大山崎町男女共同参画計画懇話会」</p> <p>日 程：2月14日(金)</p> <p>場 所：町役場3階 中会議室</p> <p>出席委員：8名</p> <p>議事(1) 委員長・副委員長の選出</p> <p>(2) 大山崎町男女共同参画計画について</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 懇話会の趣旨説明</li> <li>2. 男女共同参画に関する状況             <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国、府の男女共同参画について</li> <li>・ 町の男女共同参画について</li> <li>・ 子ども子育て支援に関するニーズ調査の結果(一部)</li> <li>・ 女性の参画状況と計画の主要な数値目標</li> <li>・ 「みとめ愛プラン」の各課の進捗状況</li> <li>・ 男女共同参画事業実績報告</li> </ul> </li> </ol> <p>(3) 意見交流</p> <p>輝く女性応援京都会議(乙訓地域会議)の会議や「京都おとくに Connection 2019」、DV 被害者支援研修への参加。</p> <p>HP や町広報誌を活用した町民への周知、啓発。</p>		
成 果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 町の男女共同参画の実態や意識について、様々な分野から意見を伺うことができた。また、意見交流自体が参加者の男女共同参画意識を高めている。</li> <li>・ 女性団体間、ならびに団体と町との繋がりを強化できた。</li> <li>・ DV について町民への周知を図ることができた。</li> </ul>		
課 題 認 識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 今後も DV や、男女共同参画について町民に広く周知し、啓発を進めること等により、地域の方が男女共同参画を自らの課題として考え、互いに協力し合うことができるように努める必要がある。</li> <li>・ 限られた予算の中で事業効果を得られるよう、より効果的な手法を検討し講じていく必要がある。</li> </ul>		

<p>評価委員の 所 見</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 男女共同参画懇話会が開催され、「みとめ愛プラン」中の数値目標や各課の進捗状況を確認されたこと及び意見交換などで現状を把握できたと思うが、問題となったところについて検討を行い改善されるよう努められたい。</li> <li>• 第3次男女共同参画計画「みとめ愛プラン」が策定されて年数が経過する中、本町において同プランへの関心は高くないように推察する。男女共同参画に関する認知度を上げるため、町挙げてのPRが必要ではないか。6つの基本理念を基に、庁内推進体制を整備し、具体的な数値目標や今後の計画を検討し、町民との協働による推進に努められたい。</li> <li>• 数ある人権問題の中で男女共同参画事業として取り出す意義があるなら、啓発のみではなく女性独自、又は協働活動事業が必要ではないのか。</li> </ul>
----------------------	--

<p>令和元年度 指導の重点 における目標</p>	<p><b>【重点目標9】生涯学習の振興</b> 生涯にわたって、多様な学習活動に取り組み、住民一人一人が「生涯をとおして、理解し合い、学び合うまち」づくりを目指して、学び続けることのできる学習環境の整備・充実に努める。</p>		
<p>事務事業名</p>	<p>ホストタウン事業</p>	<p>担当部署</p>	<p>生涯学習課 (生涯学習・スポーツ振興係)</p>
<p>事業実績</p>	<p>1 「大山崎町スイスフェア大山崎町オータム2019」 日時 11月23日(土) 参加：約200名 ①スイス伝統音楽の演奏会 ②スイス大使館文化部長による講演会 ②スイス伝統文化の切り絵体験 ③スイスのクリスマスではお馴染みのキャンドル作り体験 ④スイス関連物販(スイス菓子、スイス料理) ⑤その他(啓発パンフ等の配布、事業紹介展示 等)</p> <p>2 オリパラ教育推進事業 講演会 日時 12月6日(金) 参加：約460名 (対象：大山崎中学校全校生徒) 講師 元陸上競技選手、現指導者 世界陸上選手権アテネ大会女子マラソン日本代表 比護信子氏 夢をもって競技に打ち込む中で得たもの、スポーツの意義などを講演いただいた。</p> <p>3 スイス人国際交流員を任用 本町の国際交流推進のために、スイス人の国際交流員1名を継続任用した。主な業務は国際交流に係る情報収集や情報発信、歴史、文化資料の翻訳業務、各種関連講座の企画・運営やその他庶務など。 期間＝平成31年4月から(平成30年7月24日から継続) 配属先 生涯学習課生涯学習・スポーツ振興係</p>		
<p>成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度に続き4回目となった「大山崎町スイスフェア」は、多数の来場者があり盛況裏に終えることができた。</li> <li>・事業を通じ他文化との繋がりを住民の方々が身近に感じるきっかけとなった。</li> <li>・オリパラ教育では元オリンピックの講演により中学生に夢や高い意識をもって生きることの大切さを伝えることができた。</li> <li>・国際交流員の活用により歴史・資料の英語への翻訳が進み、様々な方に本町の歴史、ひいては魅力を発信する環境整備に寄与できた。</li> </ul>		
<p>課題認識</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・オリパラ教育やスイスフェアでは講師の選定や調整のための時間が必要となるため、他機関や地方自治体との連携も必要と考える。</li> </ul>		

<p>評価委員の 所見</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ホストタウン事業の中心事業であるフェンシングナショナルチームの事前合宿が中止になったことは非常に残念である。</li> <li>• 「大山崎町スイスフェア」を通じ他文化との繋がりを住民の方々が身近に感じるきっかけとなったことは、素晴らしい。スイス国際交流員にはスイス文化を町民に紹介するため、更に活躍いただきたい。</li> <li>• 次年度は新型コロナウイルス感染症の影響で行事ができるか、また、オリンピック延期の影響で予算補助はどうなるか等、気になるところである。</li> </ul>
---------------------	---



令和元年度 指導の重点 における目標	【重点目標11】地域社会の教育力の向上 学校・家庭・地域社会が連携・協働し、社会総がかりで子どもを健全にはぐくむ 環境づくりを推進する。																	
事務事業名	放課後児童クラブ運営事業	担当部署	生涯学習課 (生涯学習・スポーツ振興係)															
事業実績	<p>放課後児童クラブの開設（5クラブ） なかよしクラブ1・2、ともだちクラブ、でっかいクラブ1・2</p> <p>①放課後児童クラブの利用者数や需要率は高い水準で推移しており、本事業の社会的な役割は大きくなっている。</p> <p>②障がいのある児童についても、児童の状況を保護者と協議しながら、指導員の加配体制を整え、待機を生じさせることなく受け入れを行った。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・入会対象児童：町内在住の小学1年生～4年生（支援が必要な児童のうち、在籍実績がある児童については5、6年生も入会可）</li> <li>・平日（月～金）：放課後から午後6時</li> <li>・土曜日：午前8時30分から午後6時</li> <li>・長期休業日（夏季を含む）及び振替休校日 ：午前8時30分から午後5時30分</li> </ul> <p>【令和2年3月末現在 各クラブの在籍児童数】</p> <table style="margin-left: 40px;"> <tr><td>1) なかよしクラブ1</td><td>.....</td><td>41人</td></tr> <tr><td>2) // 2</td><td>.....</td><td>43人</td></tr> <tr><td>3) ともだちクラブ</td><td>.....</td><td>32人</td></tr> <tr><td>4) でっかいクラブ1</td><td>.....</td><td>42人</td></tr> <tr><td>5) // 2</td><td>.....</td><td>44人</td></tr> </table> <p style="text-align: right;">計 202人 (前年201人)</p>			1) なかよしクラブ1	.....	41人	2) // 2	.....	43人	3) ともだちクラブ	.....	32人	4) でっかいクラブ1	.....	42人	5) // 2	.....	44人
1) なかよしクラブ1	.....	41人																
2) // 2	.....	43人																
3) ともだちクラブ	.....	32人																
4) でっかいクラブ1	.....	42人																
5) // 2	.....	44人																
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安心、安全を最優先としつつ、異年齢集団の中でさまざまな学びや遊び、日々の生活の取り組みを通して、子どもたちの健全な育成を目指した保育を実施できた。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、急きょ臨時休業となった期間、社会的要請に応え、開所時間を長期休業日同様に延長したうえで、感染症対策に取り組みながら継続して保育を実施できた。</li> </ul>																	
課題認識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもを取り巻く状況や保護者ニーズに柔軟に対応する保育内容を検討する必要がある。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の感染拡大を防止するため、基本的な感染症対策を徹底し、「新しい生活様式」を踏まえた保育に取り組む必要がある。</li> <li>・今後5年間、放課後児童クラブの利用者数や需要率は漸増する見込みであり、これに対応できる施設や放課後児童支援員を確保する必要がある。</li> <li>・小学校5・6年生の受け入れについては、現在の施設や放課後児童支援員の配置状況から、直ちに対象学年を拡大することが難しいため、継続的に検討する必要がある。</li> </ul>																	

<p>評価委員の 所見</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 新型コロナウイルス感染症の影響で運営に期待が掛かり、一方でその運営に係る心労等を想像し感謝する。</li> <li>• 放課後ときめきチャレンジ事業と時間が重複するため、児童の負担とならないよう、「放課後児童クラブ事業推進検討委員会」において十分な調整が必要である。</li> <li>• 入会児童が増加傾向にあることから、この事業の必要性が窺える。「保護者が安心して働く、児童も健全に育つ」ために必要な施設。遊びの要素と学習の要素をバランス良く配する保育が望まれることから専門知識を備えた指導員の確保・養成が必要である。</li> <li>• 危機管理（新型コロナウイルス感染症拡大防止策を含む）・保育内容について指導者の研修も必要である。</li> <li>• 児童が学校の間関係を放課後児童クラブに持ち込んだり、逆にクラブの間関係を学校に持ち込んだりすることがあるので、情報共有という意味でも学校との連携は必要である。</li> <li>• 施設等については常に快適に過ごせ、効果の上がる改善を望む。</li> </ul>
---------------------	---

令和元年度 指導の重点 における目標	<b>【重点目標13】社会教育施設の活用</b> 多様な学習機会や地域のネットワークの拠点である社会教育施設の充実と活用の促進を図る。												
事務事業名	公民館管理運営事業	担当部署	生涯学習課 (中央公民館)										
事業実績	<p>施設の貸出業務使用許可、施設の維持管理</p> <p>一般使用団体は、2カ月前の1日から当日までに使用申請受付（サークル登録団体の使用申請は、3カ月前の20日から受付）</p> <p>【使用申請後のキャンセル】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・キャンセルは、使用予定日から7日前までは8割返金、それ以降は返金しない。</li> </ul> <p>【利用変更】使用申請後の変更</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・使用予定日の3カ月後の末日まで変更可能。ただし1回のみとする。</li> </ul> <p>【休館日】毎週月曜日、年末年始（12月28日から翌年の1月4日まで）</p> <p>【開館時間】8時30分～21時30分まで（別館は21時まで）</p> <p>&lt;利用状況&gt;</p> <table border="0"> <tr> <td>中央公民館開館日数</td> <td>284日</td> </tr> <tr> <td>中央公民館利用件数</td> <td>2,792件</td> </tr> <tr> <td>中央公民館施設利用率</td> <td>35.0%</td> </tr> <tr> <td>中央公民館利用者数</td> <td>33,278人</td> </tr> <tr> <td>1日当たり（平均）</td> <td>117人</td> </tr> </table>			中央公民館開館日数	284日	中央公民館利用件数	2,792件	中央公民館施設利用率	35.0%	中央公民館利用者数	33,278人	1日当たり（平均）	117人
中央公民館開館日数	284日												
中央公民館利用件数	2,792件												
中央公民館施設利用率	35.0%												
中央公民館利用者数	33,278人												
1日当たり（平均）	117人												
成果	利用者に固定化の傾向が見られるが、町民の身近な学習施設としての役割を果たしている。												
課題認識	<p>今後の施設更新の方策等を検討し、公民館施設のサークル活動や学習しやすい環境の整備を図る必要がある。</p> <p>町民の多様な学習ニーズに対応する公民館の管理や運営について検討が必要である。</p>												
評価委員の 所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館施設の総合的検討を早急に行い、改修工事が1日も早く実現することを望む。</li> <li>・町民の身近な学習施設であり、改修工事中の公民館利用ニーズに配慮が必要である</li> <li>・新型コロナウイルス感染症の関連でサークル活動等にも制約が予想される。適切な運営を望む。</li> </ul>												

令和元年度 指導の重点 における目標	<b>【重点目標13】社会教育施設の活用</b> 多様な学習機会や地域のネットワークの拠点である社会教育施設の充実と活用の促進を図る。		
事務事業名	各種公民館講座事業	担当部署	生涯学習課 (中央公民館)
事業実績	<p>&lt;各種公民館講座&gt;</p> <p>6月19日(水) シニアのための初めてのスマホ体験講座 参加者：8名 講師：KDDI(株) 斉藤 卓也 氏</p> <p>6月13日～7月25日 9月12日～11月7日(前期4回、後期4回) 英会話Café in 大山崎 参加者：延べ39名 講師：国際交流員 アドリアン・フリース 氏</p> <p>11月16日(土) 干支絵付け体験教室 参加者：27名 講師：田村 博文 氏</p> <p>11月22日(金) 型染め体験教室 参加者：11名 講師：井口 博 氏</p> <p>11月23日(土) 錫(すず)の細工体験教室 参加者：14名 講師：中元 司 氏</p> <p>1月25日(土) 男のための初めての料理体験講座 参加者：18名 講師：嶋 啓子 氏</p> <p>2月15日(土) 終活と老前整理 参加者：18名 講師：行政書士 西 博三 氏・和田 清三 氏</p> <p>&lt;図書館事業&gt;</p> <p>4月20日(土) 人形劇とブックフェア (内容)人形劇「したきりすずめ」 参加者：60名 出演：ひとり人形劇まる 中島香織 氏 協力：竹の子文庫、おぐら文庫</p> <p>※ブックフェア…よく読まれている本や読み聞かせにお勧めの本(図書室から150冊)を紹介した。</p>		
成果	多くの町民の学習意欲・仲間づくりに応えるために必要な施策であり、効果をもたらしていると考え。より多くの町民に幅広い公民館講座をお手軽に受講してもらうべく事業の展開を行った。		
課題認識	新しい公民館講座の取組も実施しているが、受講生が少数の教室もあった。多様な学習機会の提供に向けた取組が必要であり、生涯学習の重要性をアピールし、更なる講座等の充実を図っていくには、極力予算が掛からない方法を模索し実施していくが、そういった中でも必要な予算の確保も重要な課題である。		

<p>評価委員の 所見</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 新型コロナウイルス感染症の感染拡大により講座の開設が難しい状況であるが、町民の要望に応えられるよう創意工夫してできるだけ講座を開設してほしい。</li> <li>• 改修工事中も公民館活動を円滑に実施できるよう、必要な予算を確保しつつ多様な学習機会の提供に向けた検討をお願いしたい。</li> <li>• 幅広い年代の参加を促す事業は難しいにしても、学習参加可能な時に講座が用意されていることは有り難いはず。個人のニーズの趣味的なもの、社会からの要請に基づくものまで予算、講座内容、広報等を検討し、さらに講座事業が充実していくことを期待する。 また、学んだ町民自らが講座を用意する等、学びを社会に還元できる機会を作ることも必要ではないか。</li> <li>• 社会教育委員にも相談しながら、町民の学習ニーズの把握の仕方を検討してはどうか。町民自ら企画者になる方策も取り入れられないか。</li> </ul>
---------------------	---

令和元年度 指導の重点 における目標	【重点目標11】地域社会の教育力の向上 学校・家庭・地域社会が連携・協働し、社会総がかりで子どもを健全にはぐくむ 環境づくりを推進する。		
事務事業名	子ども体験教室事業	担当部署	生涯学習課 (中央公民館)
事業実績	<p>&lt;子ども体験事業&gt;</p> <p>6月16日(日) 子ども防災キャンプ 参加者：10名 講師：防災士・災害ボランティアコーディネーター 中川 久徳 氏</p> <p>7月24(水)・31日(水) ジャグリング体験教室 参加者：22名 講師：末吉 正和 氏・佐々原 鉄宅 氏</p> <p>7月25日(木)・8月1日・8日(木) 夏休み子ども陶芸教室 参加者：24名 講師：山崎 正裕 氏</p> <p>8月2日(木) 身近な科学遊び教室 参加者：24名 講師：田原誠一郎氏 協力者：長岡京市環境の都づくり会議</p> <p>8月23日(金) 夏休みトールペインティング教室 参加者：30名 講師：坂本 依真里 氏</p> <p>10月19日(土) 親子で作ろう「手作りラジオ」 参加者：17名 講師：上野山 和仁 氏</p> <p>12月2日(月) 電池手づくり教室 参加者：9名 講師：マクセル(株)東出裕子氏 他3名</p>		
成果	子どもたちの好奇心をくすぐる各種体験事業を実施することで、自主性、協調性等をはじめ、多様な感動体験活動の場の提供ができた。		
課題認識	新しい教室を開拓し、実施することも重要ではあるが、現在実施している教室は大変人気があり、募集開始して直ぐに定員が埋まる状況である。このことから継続して実施することの大切さも考慮し、定員増及び効率的・効果的な教室を研究していく必要がある。		
評価委員の見所	<ul style="list-style-type: none"> <li>子ども体験教室事業は、子ども達が初めて体験する企画がほとんどであり、興味を持って接することのできる良い機会であり、今後も継続して実施されたい。</li> <li>多くの参加者を見込める取組みにするには、日程、内容等、調整・検討が必要。地域や学校との連携で啓発することも必要である。</li> </ul>		

令和元年度 指導の重点 における目標	<b>【重点目標13】社会教育施設の活用</b> 多様な学習機会や地域のネットワークの拠点である社会教育施設の充実と活用の 促進を図る。		
事務事業名	文化のつどい事業	担当部署	生涯学習課 (中央公民館)
事業実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・11月3日(日) 中央公民館で開催</li> <li>・大山崎町社会教育関係団体が一斉につどい、ジャンルを超えた連携・交流を深めながら日々の活動成果を発表するとともに、心のふれあいを深め、地域文化の振興を図った。</li> <li>・地元の小中学生による作品展示発表、一般住民作品展示、行政展示、PRコーナーなど。</li> </ul>		
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・元年度は集客効果のある「ゆひまつり」が開催されなかったため、各展示スペースへの来場者やスタンプラリー日の参加者は前年度より少なかった。</li> <li>・児童・生徒の作品展示や社会教育団体等の日頃の活動の成果を発表する機会となった。</li> </ul>		
課題認識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化のつどいを単独開催した場合の集客には課題がある。</li> <li>・社会教育団体等の活動の展示についても、会員の高齢化により、資材の搬入や会場当番等の役割分担が負担になっているとの声も年々大きくなっている。開催する場合は、多くの人が集えるような企画が必要である。</li> </ul>		
評価委員の 所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文化のつどいは、町民の様々な活動の発表の場となっており、今後も継続して実施されたい。</li> <li>・日々の活動成果を発表する側からも、多くの人が集えるような工夫が今後も必要である。</li> <li>・文化的なイベントを一体的に行うと、調整はご苦労されるが、活気は出る。単独開催の必要性がなければ、また、社会教育団体のニーズがあれば、今後も何かの行事と同時開催されると集客が見込まれる。ただ、新型コロナウイルス感染症により次年度の行事開催については検討が必要</li> </ul>		

令和元年度 指導の重点 における目標	<b>【重点目標13】社会教育施設の活用</b> 多様な学習機会や地域のネットワークの拠点である社会教育施設の充実と活用の促進を図る。		
事務事業名	公サ連まつり事業	担当部署	生涯学習課 (中央公民館)
事業実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「第19回公サ連まつり」は6月8日(土)・9日(日) 中央公民館及び長寿苑で開催</li> </ul> <p>中央公民館を拠点に活動する文化サークルの会員らで組織する公民館サークル連絡協議会が主催し、舞台発表や作品展示など、サークル相互の親睦、連絡調整、情報交換や平素の練習成果の発表のため、毎年開催されている「公サ連まつり」である。</p> <p>今年度は、舞台発表について会場を公民館と長寿苑に分かれ開催した。</p>		
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「公サ連まつり」は、各サークルの普段の活動や練習の成果を発揮する場として、これまで実施されてきたものであり、会員相互の交流もその目的となっている。</li> </ul>		
課題認識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前年度は、本来の活動の場である公民館で開催されましたが、舞台発表のスケジュールの関係で公民館と長寿苑で開催した。</li> </ul>		
評価委員の見所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生涯学習の発表の場があることは大切である。学び、学んだことを生かすことは生涯学習の基本であり、さらなる充実・発展を望む。</li> <li>・文化サークルの発表の場である。ニーズを汲み取り、早期のハード面での整備が望まれる。</li> <li>・舞台発表については、様々な物理的要因があり困難な側面もあるが、可能なところで発表ができることが大事である。</li> <li>・次年度開催は新型コロナウイルス感染症との関連で検討が必要である。</li> </ul>		



令和元年度 指導の重点 における目標	<b>【重点目標13】社会教育施設の活用</b> 多様な学習機会や地域のネットワークの拠点である社会教育施設の充実と活用の促進を図る。		
事務事業名	図書室運営事業	担当部署	生涯学習課 (中央公民館)
事業実績	<b>中央公民館図書室運営事業</b> ①図書の貸出、返却、発注、受入、整理、保管義務 ②図書の貸出に伴う予約、リクエスト、調査・相談業務 ・貸出者＝町内に在住または在勤の者 ・冊数＝1人6冊まで ・貸出期間＝2週間まで ※本図書室は、京都府図書館総合目録ネットワークシステム「ケイ・リブネット」と提携 <b>【読みたい本が見つからないときは】</b> ・予約・リクエスト可能 ・当図書室に本がないときは他の図書館からの借用が可能 ・パソコンを利用して検索可能 <b>【開室日と時間】</b> ・火曜日～金曜日…貸出時間は午前10時～午後4時45分 ・土曜日、日曜日、祝日…貸出時間は午前10時～午後4時15分 ※休室日は、毎週月曜日、毎月最終木曜日、12月27日～1月4日、その他特別整理期間  <図書室開室状況> 開室日数 266日 蔵書数 39,400冊 (一般書 23,656冊、児童書 14,025冊、その他 1,719冊)  貸出者数 16,579人 貸出冊数 54,818冊		
成果	利用者のニーズに合った開館状態、管理者・利用者共に利用しやすい図書館システムの運営、情報提供を速やかに行うための資料管理、読書活動の普及・推進のための事業の実施、公民館図書室の利用サービスの運営事務ができた。		
課題認識	・京都府南部地域で小さな図書室の1つで、利用者は減少傾向にある。これは、全国的な傾向となっており、デジタル機器の普及による活字離れが主な要因と言われている。これに対し、今後どのように対応していくかが大きな課題である。 ・第四次「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」に沿った取組の企画・実施が求められる。		
評価委員の 所見	・京都府図書館総合目録ネットワークシステムとの提携により、図書室にない本も予約・リクエストすることにより利用できることは喜ばしいことである。 ・今後も利用者（障害のある方、出にくい条件の方等も含む）のニーズにあった事業の実施が望まれる。		

- |  |   |
|--|---|
|  | <ul style="list-style-type: none"><li>• 学校や町健康福祉部福祉課児童福祉係との連携で第4次「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」に沿った取組が企画・実施されることに期待したい。</li><li>• デジタル機器の普及による活字離れへの対応は、今後の大きな課題である。</li><li>• 図書館が建設されることが理想であるが、現状では公民館の改修計画の中で図書室が更に充実することを期待したい。</li></ul> |
|--|---|

<p>令和元年度 指導の重点 における目標</p>	<p><b>【重点目標14】生涯スポーツの推進</b> 誰もが健康で生き生きとした生活を実現するため、各スポーツ施設を整備・充実し、日常的に体力の向上が図れる環境づくりに努めるとともに、年齢や体力、目的に応じて、主体的にスポーツに親しむ生涯スポーツを振興する。</p>																																																																																																																																											
<p>事務事業名</p>	<p>体育館管理運営事業</p>	<p>担当部署</p>	<p>生涯学習課 (生涯学習・スポーツ振興係)</p>																																																																																																																																									
<p>事業実績</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>京都国体（昭和63年）でフェンシング会場となり、それ以降、各種のフェンシング大会、競技会の会場として全国的に名が知られている。</li> <li>施設の利用状況 (1) 利用状況</li> </ul> <table border="1" data-bbox="395 725 1404 949"> <thead> <tr> <th>月別</th> <th>4月</th> <th>5月</th> <th>6月</th> <th>7月</th> <th>8月</th> <th>9月</th> <th>10月</th> <th>11月</th> <th>12月</th> <th>1月</th> <th>2月</th> <th>3月</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人数</td> <td>2,933</td> <td>4,286</td> <td>4,233</td> <td>3,686</td> <td>3,685</td> <td>4,573</td> <td>4,339</td> <td>4,320</td> <td>3,510</td> <td>3,571</td> <td>3,026</td> <td>552</td> </tr> <tr> <td>件数</td> <td>126</td> <td>144</td> <td>130</td> <td>131</td> <td>128</td> <td>113</td> <td>132</td> <td>124</td> <td>98</td> <td>117</td> <td>122</td> <td>17</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">前年度</td> <td>3,523</td> <td>3,829</td> <td>3,660</td> <td>3,210</td> <td>3,602</td> <td>4,076</td> <td>5,526</td> <td>4,782</td> <td>4,341</td> <td>3,091</td> <td>4,101</td> <td>5,028</td> </tr> <tr> <td>127</td> <td>124</td> <td>116</td> <td>116</td> <td>116</td> <td>121</td> <td>148</td> <td>121</td> <td>122</td> <td>126</td> <td>141</td> <td>331</td> </tr> </tbody> </table> <table border="1" data-bbox="746 958 1404 1102"> <thead> <tr> <th></th> <th>合計人数</th> <th>合計件数</th> <th>利用率</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>本年度</td> <td>42,714</td> <td>1,382</td> <td>65.7%</td> </tr> <tr> <td>前年度</td> <td>48,769</td> <td>1,709</td> <td>70.5%</td> </tr> </tbody> </table> <ul style="list-style-type: none"> <li>(2) 種目別利用状況（人数と件数）</li> </ul> <table border="1" data-bbox="395 1191 1404 1370"> <thead> <tr> <th>種目</th> <th>フェンシング</th> <th>バレーボール</th> <th>その他</th> <th>バドミントン</th> <th>バスケットボール</th> <th>卓球</th> <th>体操</th> <th>武道</th> <th>エアロビクス</th> <th>催し物</th> <th>テニス</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>人数</td> <td>9,316</td> <td>7,257</td> <td>6,676</td> <td>6,170</td> <td>3,711</td> <td>3,453</td> <td>2,659</td> <td>1,922</td> <td>842</td> <td>470</td> <td>238</td> <td>42,714</td> </tr> <tr> <th>種目</th> <th>バドミントン</th> <th>卓球</th> <th>フェンシング</th> <th>その他</th> <th>体操</th> <th>バレーボール</th> <th>バスケットボール</th> <th>武道</th> <th>エアロビクス</th> <th>テニス</th> <th>催し物</th> <th>合計</th> </tr> <tr> <td>件数</td> <td>334</td> <td>226</td> <td>178</td> <td>149</td> <td>131</td> <td>128</td> <td>82</td> <td>81</td> <td>38</td> <td>30</td> <td>5</td> <td>1,382</td> </tr> </tbody> </table>												月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	人数	2,933	4,286	4,233	3,686	3,685	4,573	4,339	4,320	3,510	3,571	3,026	552	件数	126	144	130	131	128	113	132	124	98	117	122	17	前年度	3,523	3,829	3,660	3,210	3,602	4,076	5,526	4,782	4,341	3,091	4,101	5,028	127	124	116	116	116	121	148	121	122	126	141	331		合計人数	合計件数	利用率	本年度	42,714	1,382	65.7%	前年度	48,769	1,709	70.5%	種目	フェンシング	バレーボール	その他	バドミントン	バスケットボール	卓球	体操	武道	エアロビクス	催し物	テニス	合計	人数	9,316	7,257	6,676	6,170	3,711	3,453	2,659	1,922	842	470	238	42,714	種目	バドミントン	卓球	フェンシング	その他	体操	バレーボール	バスケットボール	武道	エアロビクス	テニス	催し物	合計	件数	334	226	178	149	131	128	82	81	38	30	5	1,382
月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月																																																																																																																																
人数	2,933	4,286	4,233	3,686	3,685	4,573	4,339	4,320	3,510	3,571	3,026	552																																																																																																																																
件数	126	144	130	131	128	113	132	124	98	117	122	17																																																																																																																																
前年度	3,523	3,829	3,660	3,210	3,602	4,076	5,526	4,782	4,341	3,091	4,101	5,028																																																																																																																																
	127	124	116	116	116	121	148	121	122	126	141	331																																																																																																																																
	合計人数	合計件数	利用率																																																																																																																																									
本年度	42,714	1,382	65.7%																																																																																																																																									
前年度	48,769	1,709	70.5%																																																																																																																																									
種目	フェンシング	バレーボール	その他	バドミントン	バスケットボール	卓球	体操	武道	エアロビクス	催し物	テニス	合計																																																																																																																																
人数	9,316	7,257	6,676	6,170	3,711	3,453	2,659	1,922	842	470	238	42,714																																																																																																																																
種目	バドミントン	卓球	フェンシング	その他	体操	バレーボール	バスケットボール	武道	エアロビクス	テニス	催し物	合計																																																																																																																																
件数	334	226	178	149	131	128	82	81	38	30	5	1,382																																																																																																																																
<p>成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>小・大体育室の空調設備の稼働により、6月から10月にかけて使用された団体等には、快適な環境を提供することができた。</li> </ul>																																																																																																																																											
<p>課題認識</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>土日はほぼ空き時間帯がない状況であるが、平日の午後3時～同6時の時間帯には空きが多いため、当該時間帯の利用確保のための方策が必要である。</li> </ul>																																																																																																																																											
<p>評価委員の 所見</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>指定管理制度の導入が言われて久しいが、現行の管理体制には、変化が見られない。様々な観点から早急に指定管理を含め管理体制の改善を検討されたい。</li> <li>駐車場の確保は必須である。</li> <li>災害の発生が多くなってきており、緊急時の対応について、訓練等により習熟しておく必要があるのではないか。</li> <li>改修工事に多額な工事費を費やしており、多くの町民に利用されるよう施策の検討が必要である。</li> </ul>																																																																																																																																											

令和元年度 指導の重点 における目標	<b>【重点目標14】生涯スポーツの推進</b> 誰もが健康で生き生きとした生活を実現するため、各スポーツ施設を整備・充実し、日常的に体力の向上が図れる環境づくりに努めるとともに、年齢や体力、目的に応じて、主体的にスポーツに親しむ生涯スポーツを振興する。														
事務事業名	大山崎町天王山カップ 少年少女フェンシング大会の開催	担当部署	生涯学習課 (生涯学習・スポーツ振興係)												
事業実績	<p>令和元年度は第4回大会を開催。町体育館の大体育室・小体育室を競技場として全国から集まった小中学生フェンサーの熱戦が繰り広げられ、大いに盛りあがった。</p> <p><b>【大会概要】</b></p> <p>日時＝令和元年12月21日(土) 14:00～16:30          及び同年12月22日(日) 9:00～17:15</p> <p>会場＝大山崎町体育館</p> <p>競技種目＝フルーレ個人戦 ※以下のカテゴリ(学年区分、男女別)</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td>小学生1・2年</td> <td>男子の部＝ 28人</td> <td>女子の部＝12人</td> </tr> <tr> <td>小学生3・4年</td> <td>男子の部＝ 80人</td> <td>女子の部＝37人</td> </tr> <tr> <td>小学生5・6年</td> <td>男子の部＝ 84人</td> <td>女子の部＝52人</td> </tr> <tr> <td>中学生</td> <td>男子の部＝115人</td> <td>女子の部＝66人</td> </tr> </table> <p>参加者合計＝474人          カテゴリ毎に1位～3位を表彰</p>			小学生1・2年	男子の部＝ 28人	女子の部＝12人	小学生3・4年	男子の部＝ 80人	女子の部＝37人	小学生5・6年	男子の部＝ 84人	女子の部＝52人	中学生	男子の部＝115人	女子の部＝66人
小学生1・2年	男子の部＝ 28人	女子の部＝12人													
小学生3・4年	男子の部＝ 80人	女子の部＝37人													
小学生5・6年	男子の部＝ 84人	女子の部＝52人													
中学生	男子の部＝115人	女子の部＝66人													
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度も全国から参加者が集まり年々本大会の知名度は上がりつつある。</li> <li>「フェンシングのまち」として小中学生年代のフェンシング競技振興に寄与することができた。</li> </ul>														
課題認識	<ul style="list-style-type: none"> <li>参加者は全国から集まり、車での来場が多いため、駐車場の整理が大変煩雑かつ危険なので、より徹底した対策を講じる必要がある。</li> <li>審判員、補助員等試合に係るスタッフの必要人数の手配が難しいため、京都フェンシング協会と協議を重ねる必要がある。</li> <li>選手、保護者含め来場者数が多いため、より安全性を意識した大会運営を行う必要がある。</li> </ul>														
評価委員の 所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>近年フェンシングもオリンピックでメダルを獲得するなど、メジャーなスポーツになりつつある。参加者が増加していることは全国の少年少女フェンサーにとっては嬉しいことである。今後も関係者と協力して大会を盛り上げていただきたい。</li> <li>全国大会を催すことは多くの町職員の力が必要であることから、職員の過重な負担とならないよう計画されたい。</li> <li>次年度は新型コロナウイルス感染症の関連で大会開催にも検討が必要。開催なら運営のマニュアル作りは必須である。</li> </ul>														

令和元年度 指導の重点 における目標	<b>【重点目標14】生涯スポーツの推進</b> 誰もが健康で生き生きとした生活を実現するため、各スポーツ施設を整備・充実し、日常的に体力の向上が図れる環境づくりに努めるとともに、年齢や体力、目的に応じて、主体的にスポーツに親しむ生涯スポーツを振興する。		
事務事業名	スポーツ振興事業	担当部署	生涯学習課 (生涯学習・スポーツ振興係)
事業実績	<p>◇町主催事業 10月13・14日(日・祝) 第58回町民体育祭 グラウンド状態不良のため予備日も中止</p> <p>◇大山崎町体育協会事業 各種大会を大山崎町体育協会へ委託し、協会事業として実施。 6月23日(日) 町民ソフトボール大会 参加者=187名 桂川河川敷公園、大山崎中学校</p> <p>8月25日(日) 町民ソフトバレーボール大会 参加者=108名 町体育館</p> <p>10月27日(日) 町民グラウンド・ゴルフ大会 参加者=139名 桂川河川敷公園</p> <p>11月24日(日) 町スポーツ少年団交流大会 参加者=166名 町体育館</p> <p>1月19日(日) 体協新春ジョギング大会 参加者=57名 桂川河川敷公園</p> <p>◇京都府民総合体育大会への参加 12競技 参加者=138名</p> <p>◇町スポーツ少年団の育成 9単位団 登録者=232名 (団員166 指導者66)</p>		
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>町民体育祭をはじめ、ソフトバレーボール大会、ソフトボール大会、グラウンド・ゴルフ大会を地区対抗形式で毎年開催している。(令和元年度はグラウンド状態及び天候不良の為、町民体育祭は中止)</li> <li>体育協会本部役員をはじめ、町体育協会地区委員の大きな協力を得て、各大会に多くの選手・役員が参加。</li> <li>体育協会加盟団体が自ら主催する各種大会も開催し、日々の練習の成果を発揮する機会を提供している。</li> <li>「体協新春ジョギング大会」の参加者は、増加の傾向を示している。</li> <li>町民にスポーツや運動する機会を提供し、町民の健康の保持・増進や地域の交流・親睦の一助となっている。</li> </ul>		
課題認識	<ul style="list-style-type: none"> <li>町全体に少子高齢化が進み各種大会・イベントへの参加者が緩やかではあるが減少傾向にある。</li> <li>誰もが気軽に参加できる(楽しめる)種目、イベント等の開催を検討し、実践できるよう努力する。</li> </ul>		

評価委員の 所見	<ul style="list-style-type: none"><li>• 少ないスタッフで多くの大会を実施しておられる体育協会は、大山崎町スポーツ振興に大変貢献されているが、スタッフの過重な負担とにならないよう考慮が必要ではないか。</li><li>• これらの事業は、大山崎町体育協会の協力を得て町民のスポーツ振興に大きな役割を果たしてきたが、少子高齢化により参加者が年々減少している。健康寿命を延ばす上でも、今後は町民のニーズにあった企画も検討していく必要があるのではないか。</li></ul>
-------------	---

令和元年度 指導の重点 における目標	【重点目標14】生涯スポーツの推進 誰もが健康で生き生きとした生活を実現するため、各スポーツ施設を整備・充実し、日常的に体力の向上が図れる環境づくりに努めるとともに、年齢や体力、目的に応じて、主体的にスポーツに親しむ生涯スポーツを振興する。		
事務事業名	総合型地域スポーツ事業 (わくわくクラブおおやまざき)	担当部署	生涯学習課 (生涯学習・スポーツ振興係)
事業実績	<p>&lt;わくわくクラブおおやまざきの事業&gt;</p> <p>①各種スポーツ教室 10種目教室 参加者 59名</p> <p>②クリスマスイベント(町体育館) 参加者 約90名</p> <p>③サタデーナイト(年間12回) 参加者 776名</p> <p>④ソフトボール大会 参加者 70名</p> <p>&lt;合計&gt; 参加者 約995名</p> <p>春のハイキング(中止) カヌー教室(中止) 秋のハイキング(中止) わくわくクラブ設立13周年イベント(中止) スキー・スノボ教室(中止)</p>		
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町スポーツ少年団や大山崎中学校の部活動等にスポーツ教室の指導を依頼しているため、つながりが継続している部分も多くあり、とくに近年スポーツ教室をきっかけにその部活に入部するという事例も増えてきている。</li> <li>・開催したイベントに関しては、安定した人数を確保できている。好評なイベントに関しては、問合せも多く楽しみにしている方も増加している。</li> </ul>		
課題認識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今まで中心となっていた青年リーダーのスタッフの多くが社会人となり卒団し、スタッフ人数が減少しているのに対し、新たなスタッフの確保が難しく、人材発掘及び育成が課題である。</li> </ul>		
評価委員の 所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの地域で総合型地域スポーツクラブが解散・消滅している中、参加者が減少することなく続けておられるのは、スタッフの努力のたまものである。</li> <li>・今後も継続して事業を進めていただきたいが、スタッフの確保が難しくなる中、事業が継続して続けられるのか、慎重に検討されたい。</li> <li>・年度内開催中止の理由は天候不良、新型コロナウイルス感染症関連等があるが、次年度もその要素を考慮しなければならない。</li> </ul>		

令和元年度 指導の重点 における目標	【重点目標14】生涯スポーツの推進 誰もが健康で生き生きとした生活を実現するため、各スポーツ施設を整備・充実し、日常的に体力の向上が図れる環境づくりに努めるとともに、年齢や体力、目的に応じて、主体的にスポーツに親しむ生涯スポーツを振興する。																							
事務事業名	スポーツ団体育成事業	担当部署	生涯学習課 (生涯学習・スポーツ振興係)																					
事業実績	<p>町体育協会及び総合型地域スポーツクラブ（わくわくクラブおおやまざき）加盟の団体に対する指導・助言を行っている。</p> <p>◇スポーツ団体(5 団体)</p> <table border="1"> <tr> <td>・バレーボール連絡協議会</td> <td>4チーム</td> <td>72名</td> </tr> <tr> <td>・バドミントン協会</td> <td>6チーム</td> <td>93名</td> </tr> <tr> <td>・ゲートボール協会</td> <td>1チーム</td> <td>6名</td> </tr> <tr> <td>・グラウンド・ゴルフ協会</td> <td>1チーム</td> <td>54名</td> </tr> <tr> <td>・軟式野球連盟</td> <td>10チーム</td> <td>170名</td> </tr> </table> <p>◇総合型地域スポーツクラブ</p> <table border="1"> <tr> <td>・わくわくクラブおおやまざき</td> <td>会員数</td> <td>59名</td> </tr> </table> <p>◇スポーツ少年団</p> <table border="1"> <tr> <td></td> <td>9単位団</td> <td>232名</td> </tr> </table>			・バレーボール連絡協議会	4チーム	72名	・バドミントン協会	6チーム	93名	・ゲートボール協会	1チーム	6名	・グラウンド・ゴルフ協会	1チーム	54名	・軟式野球連盟	10チーム	170名	・わくわくクラブおおやまざき	会員数	59名		9単位団	232名
・バレーボール連絡協議会	4チーム	72名																						
・バドミントン協会	6チーム	93名																						
・ゲートボール協会	1チーム	6名																						
・グラウンド・ゴルフ協会	1チーム	54名																						
・軟式野球連盟	10チーム	170名																						
・わくわくクラブおおやまざき	会員数	59名																						
	9単位団	232名																						
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スポーツ団体については、「総合型地域スポーツクラブ」、「スポーツ少年団」を含む7団体がある。</li> <li>・府民総合体育大会市町村対抗競技への参加をはじめ、それぞれのスポーツ団体主催の事業も数多く開催されている。</li> <li>・総合型地域スポーツクラブ（わくわくクラブおおやまざき）は、小学生や大人を対象とした各種スポーツ教室や、季節ごとの屋外のイベントを開催し、定員を超えるほどの参加者が集まった。</li> <li>・スポーツ少年団は、8種目、9単位団が加盟し、これは京都府内でもトップクラスの加入率であり、小さい町ではあるが、子どものスポーツ活動は盛んである。</li> </ul>																							
課題認識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・加盟チーム数の減少傾向が見られる。加盟会員の高齢化が進みつつあり、また、少子化によるスポーツ少年団員の緩やかな減少傾向が見受けられる。</li> <li>・それぞれの団体を運営される方（代表者）や、技術指導者のさらなる資質の向上を研修会、講習会等に参加されることで求めたい。</li> <li>・町内での活動場所が、町体育館、学校体育施設、桂川河川敷公園等で、ほぼ飽和状態となっている。</li> </ul>																							
評価委員の 所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの団体が育成されている。スポーツ少年団も加入率が高い。健全なスポーツの在り方のためにも指導者・代表者の研修が行われると良い。</li> <li>・団体のモチベーションを下げないよう学校体育施設利用にかかる一定のルールの作成が求められる。</li> <li>・スポーツ場所の確保が課題となるのはある意味、喜ばしい。但し、利用方法等に工夫ができないか。</li> </ul>																							



令和元年度 指導の重点 における目標	【重点目標14】生涯スポーツの推進 誰もが健康で生き生きとした生活を実現するため、各スポーツ施設を整備・充実し、日常的に体力の向上が図れる環境づくりに努めるとともに、年齢や体力、目的に応じて、主体的にスポーツに親しむ生涯スポーツを振興する。		
事務事業名	スポーツ推進委員育成事業	担当部署	生涯学習課 (生涯学習・スポーツ振興係)
事業実績	<p>スポーツ基本法に基づき委員を委嘱している。</p> <p>スポーツ推進委員は、町スポーツ推進委員協議会を構成し、町体育協会事業への指導・助言や総合型地域スポーツクラブ（わくわくクラブおおやまざき）への指導・助言を行っている。</p> <p>また、近畿・府・乙訓のスポーツ推進委員研修会等への積極的な参加により個々の指導力の向上を図っている。</p>		
成果	<p>スポーツ推進委員が大山崎町のスポーツ振興事業の企画・運営に携わることにより、町体育協会等が開催する各種大会、イベントがスムーズに運営できている。</p> <p>各種スポーツイベント等の運営に携わることで、地域の交流・親睦の一助となっている。</p>		
課題認識	委員の年齢層が高くなり、20代～40代の委員を増員し若返りを図る必要がある。		
評価委員の 所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町民のスポーツ振興に、スポーツ推進委員の役割は重要である。スポーツ団体や総合型地域スポーツクラブへの助言のためにも、優れた人材の確保が望まれる。</li> <li>・長寿化に対応するために「スポーツとは何か」「新型コロナウイルス感染症のもとでのスポーツの在り方」等、スポーツ推進委員研修会等への積極的な参加により考えてほしい。</li> <li>・「スポーツを愛する人が多くいる大山崎町」のイメージがある。推進員の補充の手立て、道筋を一定ルール化できないか。</li> </ul>		

令和元年度 指導の重点 における目標	【重点目標14】生涯スポーツの推進 誰もが健康で生き生きとした生活を実現するため、各スポーツ施設を整備・充実し、日常的に体力の向上が図れる環境づくりに努めるとともに、年齢や体力、目的に応じて、主体的にスポーツに親しむ生涯スポーツを振興する。		
事務事業名	各種スポーツ施設開放事業	担当部署	生涯学習課 (生涯学習・スポーツ振興係)
事業実績	<p>&lt;施設別の利用件数/利用者数&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>桂川河川敷公園の開放(野球場、テニスコート、陸上競技場) 利用件数 114 件/利用者数7,038 名 (前年度98件/6,498名)</li> <li>岩崎運動広場の開放 利用件数 112 件/利用者数698名 (前年度 137 件/751名)</li> <li>町内小中学校体育施設の開放 利用件数 1,012 件/利用者数 24,128 名 (前年度 959 件/22,790 名)</li> </ul>		
成果	桂川河川敷公園、岩崎運動広場、特に小中学校体育施設については、町民のスポーツ活動の中心的な役割を果たしている。		
課題認識	<ul style="list-style-type: none"> <li>岩崎運動広場は年々コートの状態が悪化しており、応急措置としてのコートの苔除去清掃を実施するも、施設そのものの改善を要する状態となっている。</li> <li>老朽化にともなう措置として、平成30年8月からダブルス面を使用中止としている。</li> </ul>		
評価委員の 所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>町体育館、大山崎小学校のナイター照明など、改修工事が進み、利用しやすい施設となったことは喜ばしいことである。</li> <li>岩崎運動広場については、ダブルス面の使用禁止が続いており、使用できないのはもったいない。早急に改修工事が実施されることを望む。</li> <li>体育館に続き、公民館と改修等が必要な事案があり、学校教育でも給食施設等が検討されている。組織体制として教育関係施設の技術担当として、政策総務課へ協力を依頼してはどうか。</li> <li>安全なスポーツ振興に施設整備は欠かせない。今後も予算確保・人員確保を望む。</li> </ul>		

令和元年度指導の重点における目標	<b>【重点目標14】生涯スポーツの推進</b> 誰もが健康で生き生きとした生活を実現するため、各スポーツ施設を整備・充実し、日常的に体力の向上が図れる環境づくりに努めるとともに、年齢や体力、目的に応じて、主体的にスポーツに親しむ生涯スポーツを振興する。		
事務事業名	フェンシング競技用具更新事業	担当部署	生涯学習課 (生涯学習・スポーツ振興係)
事業実績	<p>本町は、「フェンシングのまち大山崎」として、フェンシング競技の普及ならびに同競技を通じた地域間交流の促進、地域の活性化を進めている。</p> <p>そうした中、町体育館で保有するフェンシング競技用具類は、老朽・劣化が激しく、国際基準に合致しないものであることから、競技団体、利用団体から更新の要望が寄せられていた。</p> <p>これらをふまえ、より一層フェンシング競技環境の向上を図ることを目的に、昨年度に引き続きスポーツ振興くじ助成金を活用して、町体育館にフェンシング用具2セットを新たに購入し、設置した。</p> <p>＜令和元年度に新たに購入した用具＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①審判器フルセット×2セット</li> <li>②リールセット ×2セット</li> <li>③4面表示灯 ×2セット</li> <li>④アルミピスト ×2セット</li> </ul> <p>総事業費＝5,093,000円          財源内訳＝（スポーツ振興くじ助成金）4,074,000円          （一般財源）1,019,000円</p>		
成果	<p>今後は、本町主催の「大山崎町天王山カップ少年少女フェンシング大会」をはじめ、町体育館での様々なフェンシング競技場面で有意義な活用が期待できる。</p> <p>また、平成30年度購入分を含めた合計5セットの競技用具を揃えたことで、全日本や国際的な大会での競技にも対応する環境が整備された。</p> <p>なお、財源については独立行政法人日本スポーツ振興センターによる地方公共団体スポーツ活動助成制度を申請し、助成金を得ることができた。</p>		
課題認識	<p>町体育館で保有するフェンシング競技用具類は、老朽・劣化が激しく、各種フェンシング競技会、大会等を実施するうえで必要となるもので、今後も順次計画的に更新を行っていく必要がある。</p> <p>事業費が高額となるため、財源等の措置として、引き続きスポーツ振興くじ助成金等を活用することが前提である。</p>		
評価委員の見所	<ul style="list-style-type: none"> <li>・近年、国際大会などで活躍が目立ってきているフェンシング競技は、大山崎町にとって重要である。京都国体（昭和63年度）以来フェンシング競技のメジャー化は著しく、地元からも有力な選手を輩出しており、今後も活躍が期待される。そのような状況を鑑み、競技に必要な用具の更新は必然であり、今後も補助金を活用し、積極的に更新を図られたい。</li> <li>・用具の新調で「フェンシングの町：大山崎」を誇れる。財源の確保にも努力された。今後も、オリンピック・パラリンピック、ホストタウンが契機となり、用具の新調が計画的にされるよう期待する。</li> <li>・町の財源支出もあるので、その活用が見える形にしてほしい。</li> </ul>		

令和元年度 指導の重点 における目標	<b>【重点目標15】文化活動の促進と文化財の保護と活用</b> 天王山と三川合流地点の地形に恵まれた町の美しい自然と豊かな歴史を活用し、自分の住んでいる地域への愛着や誇りをはぐくむとともに、様々な取組や町内にある数多くの文化財に興味・関心を持ち、郷土の歴史や伝統文化を継承する。		
事務事業名	歴史資料館運営事業	担当部署	生涯学習課 (歴史資料館)
事業実績	<歴史資料館の運営、活動> 年間入館者総数(開館日数 273日) 新型コロナウイルス感染症(covid19)による休館日 22日 8,020名 図録等販売実績 669,540円		
成果	<ul style="list-style-type: none"><li>令和2年放映の大河ドラマ『麒麟がくる』が決定したことで、明智光秀時代の展示を実施した。特に、地域社会から光秀、あるいは細川藤孝を考える展示を試みた。丹波・乙訓という地域に密着した国衆との関係に着目した。展示にあたっては、同一テーマの府域の他資料館とも広報等で協力しあった。展示内容については、企画展示図録「国衆からみた光秀、藤孝」において、まとめた。</li><li>例年の通り、歴史街道推進協議会「西国街道部会」などを通じて、西国街道沿道の自治体立の博物館施設との連携を実施することができた。毎年度実施するリレートークでは、「国絵図と西国街道」をテーマに、西宮市役所で開催した。現地見学のリレーウォークも実施され、各々の施設や活動と西国街道をPRすることができた。当館の場合、阪神間の人々に存在を周知させる絶好の機会となった。</li><li>地元小学校における地域学習においても資料館が積極的に使用された。</li></ul>		
課題認識	<ul style="list-style-type: none"><li>入館者数は、新型コロナウイルス感染症による休館のため、結果として3月中下旬の入館者が見込めず、前年度とほぼ同数にとどまった。図録等の販売数は前年度より増加した。この傾向を維持していく必要がある。</li><li>団体入館者に対しては、じっくりと時間をかけて見学していただく工夫が必要である。</li><li>HPを有効に活用し、個別文化財の解説、日々の行事、さらに過去の企画展示図録などを紹介し、さらなる入館者増加や図録等の販売につなげたい。</li></ul>		
評価委員の 所見	<ul style="list-style-type: none"><li>大河ドラマ『麒麟がくる』の放映が実現したことで、明智光秀と関りが深い当町がその関係の企画展を実施し、多くの人の関心を引き起こしたことは素晴らしい。</li><li>歴史資料館を通じて自治体立の博物館施設等と連携し、グローバルな視点で事業が実施されていることは非常に評価できる。今後もこの取組を通じて大山崎の歴史を広く発信されたい。</li><li>地元小学校における地域学習に資料館が使用されることは有意義なことであり、今後も地元小学生の学習意欲向上に貢献されたい。</li><li>HPを活用する等、入館者増、図録販売への努力を評価する。</li><li>町が精力的に歴史資料館を運営していることは誇れる。町民の各年代層へのアプローチを望む。</li></ul>		

令和元年度 指導の重点 における目標	<b>【重点目標15】文化活動の促進と文化財の保護と活用</b> 天王山と三川合流地点の地形に恵まれた町の美しい自然と豊かな歴史を活用し、自分の住んでいる地域への愛着や誇りをはぐくむとともに、様々な取組や町内にある数多くの文化財に興味・関心を持ち、郷土の歴史や伝統文化を継承する。		
事務事業名	各種企画展等事業	担当部署	生涯学習課 (歴史資料館)
事業実績	<各種企画展の開催・調査活動> 5月10日(金)～6月2日(日) 『蘭花譜』の可能性一色あせない世界(小企画展) 参加者 650名 8月6日(火)～25日(日) 第21回「平和のいしずえ」展(小企画展) 参加者 336名 10月19日(土)～12月1日(日) 「国衆からみた光秀・藤孝一丹波・乙訓と織田権力」(第27回企画展) 参加者 2,523名 令和2年3月3日(火)～5日(木)→感染症対策のため、以後休館。 「天王山山麓の寺院群」(小企画展) 参加者 20名 <その他> 町内文化財の修理、燻蒸、館蔵古文書の目録作成		
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>新しく確認された池田瑞月による『蘭花譜』関係資料の展示を行った。版画サイズを越え、掛軸という体裁で描いた作品などが確認された。</li> <li>「平和のいしずえ」展では、日中戦争時に撮影された写真資料を細かく検討し、戦時における都市の様子を紹介した。</li> <li>企画展では、令和2年大河ドラマ『麒麟がくる』関連事業として、明智光秀に関する第27回企画展『国衆からみた光秀、藤孝』を実施した。その際、期間、内容が重複する、京都府立丹後郷土資料館『光秀と幽斎-丹波・丹後の攻防と支配』、京都府立山城郷土資料館『光秀と幽斎-花開く武将文化』と、展示および広報で協力しあった。</li> <li>生涯学習ボランティアグループ(大山崎ふるさとガイドの会)に、企画展に関する学習会を実施し、新しい展示資料に関する内容が説明できるようにした。新たに修得された知識等を活用し、説明内容にも幅ができた。</li> <li>重要文化財『革嶋家文書』、京都市指定文化財「明智光秀坐像」等を展示した。また、大山崎における当該期の祭礼関係史料たる『童使帳』および町内に残る『愛宕社尾崎坊文書』などを展示した。『愛宕社尾崎坊文書』では、織豊期乙訓郡外畑村(京都市西京区)における館蔵、町内、および京都大学所蔵の史料を一堂に展示し、相互の史料の関係を紹介した。</li> <li>町内における京都府暫定登録文化財『井尻家文書』を整理し、その目録を作成した。また、小企画展において、近世期における廃寺関係史料を一部紹介した。</li> </ul>		

<p>課題認識</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大河ドラマの影響により、山崎合戦や織豊期の政治史など、対外的なニーズに十分対処できるよう、より有効な情報の発信が求められている。</li> <li>・他方、対外的な問い合わせ、レファレンスが増加するなか、町内の地域史料の発信を継続的に進め、大山崎町の歴史や文化の理解を更に広げることが必要である。</li> </ul>
<p>評価委員の 所見</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎年、大山崎に関わる様々なテーマをピックアップし数度の企画展を実施されていることは、素晴らしい。今後も同様に企画展を計画実施し、紹介を続けてほしい。</li> <li>・企画展に集客が多いのは工夫をされたからだと想像するが、新型コロナウイルス感染症の影響で休館されたのは残念である。</li> <li>・「ふるさとガイドの会」の活用も学習会等で得た新知識を生かした案内ができるようにされていて、他地域の方からも評価されている。企画展だけではなく、常設展も希望者に分かりやすい説明付き（対話式）だとより入館者が楽しめる。</li> <li>・年代を固定せず企画されている。埋蔵文化財を資料として展示されると歴史に厚みが出る。また、精力的に新資料の発掘に尽力されていることにも敬意を表する。</li> <li>・収集・整理・保存・調査・研究・展示・教育（養成）に至るまで、少ないスタッフにも関わらず積極的に取り組まれた結果、町外からも注目され利用者・来館者が多いことは高く評価できる。</li> </ul>

令和元年度 指導の重点 における目標	<b>【重点目標15】文化活動の促進と文化財の保護と活用</b> 天王山と三川合流地点の地形に恵まれた町の美しい自然と豊かな歴史を活用し、自分の住んでいる地域への愛着や誇りをはぐくむとともに、様々な取組や町内にある数多くの文化財に興味・関心を持ち、郷土の歴史や伝統文化を継承する。		
事務事業名	講座・講演会事業	担当部署	生涯学習課 (歴史資料館)
事業実績	<各種啓発事業の開催> ◇講座・講演会等 9月16日(月) 「光秀最期の地、小栗栖」(連続講演会①) 参加者 計82名 10月6日(日) 「羽柴秀吉の長浜城下町づくりと町衆の秀吉観」(連続講演会②) 参加者 計48名 10月26日(土) 「大山崎の都市民と豊臣秀吉・豊国社」(連続講演会③) 参加者 計64名 10月27日(日) 「国絵図からみた国境の街、大山崎」(西国街道リレーウォーク) 参加者 24名 11月2日(土) 「『麒麟が来る』明智光秀をめぐる英傑たち」(歴史講演会①) 参加者 計136名 11月4日(月) 「織田権力の政策と明智光秀」(歴史講演会②) 参加者 計167名 11月17日(日) 「細川藤孝の勝龍寺城を訪ねて」(企画展 現地見学会) 参加者 計31名 11月24日(日) 「明智光秀の福知山築城とその後」(歴史講演会③) 参加者 計116名 11月16日(土) 講談にみる山崎合戦 参加者 計130名 (大河ドラマ関連事業) ◇普及啓発事業(文化を未来に伝える次世代育み事業) 7月6日(土)・20日(土) 「お抹茶茶わんをつくろう!」(子ども歴史クラブ教室) 参加者 計15名		

	<p>7月24日(水)・25日(木) 「茶杓をつくろう！」(夏休み子ども歴史教室) 参加者 計16名</p> <p>◇ラウンジ展示 6月29日(土)～7月7日(日) 「鳥居前古墳出土の画文帯環状乳神獣鏡」 参加者 計278名</p> <p>9月10日(火)～10月14日(月) 西国街道ミニ展示(「摂州名所之図」「江戸長崎道中絵巻」の展示) 参加者 799名</p>
<p>成 果</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 企画展を通じて、京都府域における織豊期の政治史と地域史が連動して学べる場をつくった。また、啓発活動を通じて、現地の史跡や文化財とつなげて理解する場を提供した。学習機会の形成とともに、大河ドラマ誘致、関連自治体との関わりを考える視角を啓発した。</li> <li>• 有名な山崎合戦があった場所であることを啓発し、地元大山崎町に対する愛着心が育まれた。</li> <li>• 他市町村における研究成果を踏まえることで、当該期の大山崎町の歴史や文化をより客観的に見据えることができるようになった。さらに西国街道を扱うことで、広域連携を行うことにつながった。</li> <li>• ラウンジ展示を柔軟に実施することによって、新しい成果をより早く、また文化財をより身近に捉えられる契機とした。</li> <li>• 小中学生対象の各事業を実施することにより、幅広い年代層に対して、地域の歴史・文化を学んでもらう場となった。毎年相違するテーマを選びつつ、郷土資料や町内文化財を学習することで、地元大山崎町への愛着心が育まれることにつながっていった。</li> <li>• 小中学生がボランティアグループと接するなかで、幅広い年代の方々との交流が生まれている。</li> <li>• 子どもたちに対する有効な指導ができるよう、ガイドへの講習会を実施した。ボランティアグループにおいても、小中学生の習熟度に応じた対処・取組が可能となり、指導者育成につながった。講習会などを順次実施していくことで、これを補強している。</li> <li>• 文化財の調査や、その保管する環境調査を行うことによって、新しく確認された地元資料を良好な保存し、これを後代に伝え、展示・公開を進めることができる。また、企画展・小企画展にも活用できる。</li> </ul>
<p>課 題 認 識</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 一つの時代相を広域に検討することにより、幅広い視点で地域の歴史を検証することが可能である。乙訓の歴史を検証するなかで、大山崎との比較検討を今後も考察していく必要がある。こうした側面をさらに掘り起こし、他自治体立の博物館施設とさらなる広域連携を進めることが課題である。</li> <li>• 小中学生の関心を高めるテーマを、さらに追求していく必要がある。これには、子どもたちの習熟度に応じた説明や理解の促進を実施することが肝要である。</li> <li>• 寄贈を受けた古文書等を調査し、その目録を作成することが必要である。そ</li> </ul>



	<p>れを契機に公開・活用していくことにつながる。</p>
<p>評価委員の 所見</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• NHK 大河ドラマ『麒麟がくる』の放映により、明智光秀やその時代に関心が高まったことを受け、講演会をシリーズ化して実施されたことはタイムリーで素晴らしい。</li> <li>• 新たにラウンジ展示を行い、日常的に大山崎の歴史等を紹介されたことは、町民の関心を高めることに寄与していると思う。</li> <li>• 大人、子ども向けのたくさんの企画が行われており、結果、ふるさと大山崎への愛着(誇り)が育まれたことは評価できる。観光との連携や小中学校の歴史学習・総合的な学習の時間として教育課程に組み込む、出前授業等さらなる充実が望まれる。</li> <li>• 普及啓発事業も(地域学習展示交流会等)、地域総掛かりで子どもを育てる観点からも応援したい。</li> <li>• 「〇〇コース」のような、所要時間の目安と共に町内の歴史を巡るガイドブックを(学年発達段階に合わせ)何コースか作成し、小中学校等に配布し、学習で活用してもらうことを検討できないか。</li> <li>• 「ふるさと案内人養成・活用」が継続されているのが素晴らしい。ふるさとガイドの補充にも繋がっているものと思われる。</li> </ul>

令和元年度 指導の重点 における目標	<b>【重点目標15】文化活動の促進と文化財の保護と活用</b> 天王山と三川合流地点の地形に恵まれた町の美しい自然と豊かな歴史を活用し、自分の住んでいる地域への愛着や誇りをはぐくむとともに、様々な取組や町内にある数多くの文化財に興味・関心を持ち、郷土の歴史や伝統文化を継承する。		
事務事業名	有形文化財の保護	担当部署	生涯学習課 (歴史資料館)
事業実績	国庫補助による修理 ・聴竹居(重要文化財)の修理 保存・強化にかかる聴竹居本屋・閑室の内壁、屋根の修理 令和元年9月3日(火)～令和2年3月31日(火) 国庫補助事業  京都府社寺等文化資料保全補助金による修理 ・離宮八幡宮拝殿扉および中門屋根の修理(国登録有形文化財) 拝殿扉 令和元年10月1日(火)～令和2年3月31日(火) 中門屋根 令和元年11月1日(金)～令和2年3月31日(火) ・妙喜庵庫裏の外壁の修理 令和元年11月1日(金)～令和2年3月31日(火) ・大念寺本堂屋根、鐘楼屋根の修理 本堂屋根 令和元年10月1日(火)～令和2年3月31日(火) 鐘楼屋根 令和元年11月1日(金)～令和2年3月31日(火)  町指定文化財の修理 ・「天王山」銘 常夜燈2基の解体・修理 令和2年1月28日(火)～3月31日(火)		
成果	・国、府と連携し、平成30年の大阪府北部地震、および台風21号によって被災した建造物を継続して修理した。		
課題認識	・台風や地震による国宝、重要文化財の被災について、情報の共有化と、所有者との密な連絡が求められる。 ・一部、修理が継続、あるいは今後計画している箇所があり、引き続き対処していく。 ・未指定文化財に対する修理や保護について、対処が求められている。		
評価委員の 所見	・近年、地震や台風の来襲が頻発しており、歴史的建造物もその被害を免れない。自然現象による災害はいつ起こるか分からないが、時間をおいて被害が大きくならぬよう早急な復旧を期待する。 ・復旧費用は高額に及ぶものと思料され、国・府の補助金を受けられるよう関係者と密に協議されるよう期待する。 ・未指定ながら保存の価値があるものへの対応は確かに難しいと思われる。 ・歴史資料館が有形文化財保護まで担うためにはスタッフの必要性を感じる。		

令和元年度 指導の重点 における目標	<b>【重点目標15】文化活動の促進と文化財の保護と活用</b> 天王山と三川合流地点の地形に恵まれた町の美しい自然と豊かな歴史を活用し、自分の住んでいる地域への愛着や誇りをはぐくむとともに、様々な取組や町内にある数多くの文化財に興味・関心を持ち、郷土の歴史や伝統文化を継承する。		
事務事業名	文化財調査事業（原因者）	担当部署	生涯学習課 （文化芸術係）
事業実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長岡京跡右京第 1193 次調査 調査対象面積 164 m<sup>2</sup> 5月7日（火）～5月16日（木）</li> <li>・長岡京跡右京第 1188 次調査 出土遺物整理作業 4月1日（月）～令和2年3月31日（火）</li> <li>・『大山崎町埋蔵文化財調査報告書』第58集を刊行</li> </ul>		
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長岡京跡右京第 1193 次調査は、宅地造成に伴って実施し、中世の遺構・遺物を確認した。</li> <li>・長岡京跡右京第 1188 次調査は、平成 30 年度に発掘調査を実施し、今年度は、縄文時代と鎌倉時代の遺物の整理作業を実施した。</li> <li>・『大山崎町埋蔵文化財調査報告書』第58集は、長岡京跡右京第 1193 次調査、長岡京跡右京第 1188 次調査の各成果を報告した。</li> </ul>		
課題認識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開発に伴う発掘調査において、遺構・遺物を適切に記録し、遺跡の実態を町の歴史に反映させることが重要である。</li> </ul>		
評価委員の 所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・開発に伴う発掘調査は、宅地開発等における不定期で予定の立たない事業であるが、貴重な遺構の調査であり、記録、保存に万全を期していただきたい。それを開発に生かすことができることもある。</li> <li>・遺構・遺物適切な記録のためにももの収蔵庫の確保を望む。</li> </ul>		

令和元年度 指導の重点 における目標	<p><b>【重点目標15】文化活動の促進と文化財の保護と活用</b></p> <p>天王山と三川合流地点の地形に恵まれた町の美しい自然と豊かな歴史を活用し、自分の住んでいる地域への愛着や誇りをはぐくむとともに、様々な取組や町内にある数多くの文化財に興味・関心を持ち、郷土の歴史や伝統文化を継承する。</p>		
事務事業名	文化財調査事業（国庫補助）	担当部署	生涯学習課 （文化芸術係）
事業実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山崎津跡第21次調査（山崎津跡の範囲確認調査） 調査対象面積 76.2㎡ 9月24日（火）</li> <li>・山城国府跡第76次調査（大山崎遺跡群の範囲確認調査） 調査対象面積 20㎡ 12月16日（月）～令和2年1月24日（金）</li> <li>・山崎城跡第2次調査（山崎城跡の詳細分布調査） 調査対象面積 22㎡ 12月10日（火）～12月12日（木）</li> <li>・長岡京跡右京第1204次調査（長岡京跡、宮脇遺跡の範囲確認調査） 調査対象面積 60㎡ 令和2年2月17日（月）～3月6日（金）</li> <li>・『大山崎町埋蔵文化財調査報告書』第57集を刊行</li> </ul>		
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山崎津跡第21次調査では、山崎津の範囲確認調査として、マクセル工場敷地内において、遺構面の深さと堆積状況について調査した。</li> <li>・山城国府跡第76次調査では、大山崎遺跡群の範囲確認調査として、聴竹居敷地内において、平安時代の遺構・遺物を確認した。</li> <li>・山崎城跡第2次調査では、山崎城跡の詳細分布調査として、オルソ画像・実測図によって、石垣の遺存状況の資料化を行った。</li> <li>・長岡京跡右京第1204次調査では長岡京跡、宮脇遺跡の範囲確認調査として、遺構面の深さについて調査した。</li> <li>・『大山崎町埋蔵文化財調査報告書』第57集では、平成30年度、令和元年度の調査を報告した。</li> </ul>		
課題認識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国庫補助事業の各事業において、遺跡の範囲を的確に把握し、保存等の取組に活かすことが重要である。</li> </ul>		

評価委員の 所見	<ul style="list-style-type: none"><li>・オルソ画像や実測図などにより山崎城跡の遺存状況の資料化が行われたことは、今後の山崎城跡の調査に大いに役立つはず。今後の調査により素晴らしい成果を期待する。</li><li>・今後も国庫補助を受けながら、埋蔵文化財発掘調査を継続されたい。</li></ul>
-------------	---

令和元年度 指導の重点 における目標	<b>【重点目標15】文化活動の促進と文化財の保護と活用</b> 天王山と三川合流地点の地形に恵まれた町の美しい自然と豊かな歴史を活用し、自分の住んでいる地域への愛着や誇りをはぐくむとともに、様々な取組や町内にある数多くの文化財に興味・関心を持ち、郷土の歴史や伝統文化を継承する。		
事務事業名	史跡整備事業（国庫補助）	担当部署	生涯学習課 （文化芸術係）
事業実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保存整備工事（史跡大山崎瓦窯跡） 6月3日（月）～令和2年3月31日（火） 遺構表示工・園路広場工・学習施設工・安全管理施設工・休養施設工・植栽工・給水工</li> <li>・第75次遺跡確認調査整理作業（史跡大山崎瓦窯跡） 6月3日（月）～令和2年3月31日（火）</li> <li>・第1回史跡大山崎瓦窯跡史跡整備委員会 9月30日（月）</li> <li>・第2回史跡大山崎瓦窯跡史跡整備委員会 令和2年2月7日（金）</li> </ul>		
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・史跡整備事業では、保存整備工事を行った。</li> <li>・第75次遺跡確認調査整理作業では、平成29年度に実施した調査の遺物および遺構の整理作業を実施した。</li> <li>・史跡大山崎瓦窯跡史跡整備委員会では、令和2年度の竣工に向けて、協議した。</li> </ul>		
課題認識	<ul style="list-style-type: none"> <li>・史跡の意義を活かすための整備を進め、今後の活用に向けた具体的な取組を計画することが課題である。</li> </ul>		
評価委員の 所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>・史跡大山崎瓦窯跡の保存整備工事はほぼ完成に近づいているが、適切な予算を確保し、維持管理も含めた整備作業を今後も実施されたい。</li> </ul>		

令和元年度 指導の重点 における目標	<b>【重点目標15】文化活動の促進と文化財の保護と活用</b> 天王山と三川合流地点の地形に恵まれた町の美しい自然と豊かな歴史を活用し、自分の住んでいる地域への愛着や誇りをはぐくむとともに、様々な取組や町内にある数多くの文化財に興味・関心を持ち、郷土の歴史や伝統文化を継承する。		
事務事業名	史跡用地買上事業（国庫補助）	担当部署	生涯学習課 （文化芸術係）
事業実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>史跡乙訓古墳群鳥居前古墳買上事業（直接買上げ）              対象地：円明寺小字鳥居前 15-29、71-2、72-2、72-3              対象面積：1,781.51 m<sup>2</sup></li> </ul>		
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>鳥居前古墳保存のため、史跡指定地の土地の一部を買上げた。</li> </ul>		
課題認識	<ul style="list-style-type: none"> <li>史跡乙訓古墳群 鳥居前古墳の保存と整備・活用のため、京都府関係部局とも連携し取り組む必要がある。公有地化を進め、今後の整備内容について検討していくことが課題となる。</li> </ul>		
評価委員の 所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>史跡指定地の用地買収は今後も続くと聞いているが、財政的負担が大きなものと思われるため、京都府関係部局と協議し、国庫補助を十分活用していただきたい。</li> <li>町民へ十分な説明をし、公有地として歴史的な保存・活用を検討されたい。</li> </ul>		

令和元年度 指導の重点 における目標	<b>【重点目標15】文化活動の促進と文化財の保護と活用</b> 天王山と三川合流地点の地形に恵まれた町の美しい自然と豊かな歴史を活用し、自分の住んでいる地域への愛着や誇りをはぐくむとともに、様々な取組や町内にある数多くの文化財に興味・関心を持ち、郷土の歴史や伝統文化を継承する。		
事務事業名	埋蔵文化財等普及啓発事業	担当部署	生涯学習課 (文化芸術係)
事業実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 大山崎中学校職場体験学習（2年生4名） 10月29日（火）・30日（水）</li> <li>• ミニシンポジウム「鳥居前古墳の被葬者像と王権」を開催 6月30日（日） 参加者：一般住民 約97名</li> <li>• 文化のつどい 11月3日（日） 調査成果をポスター展示</li> <li>• リーフレット「史跡 乙訓古墳群 鳥居前古墳」を刊行</li> </ul>		
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 町民の中でも歴史に興味を持つ方は多いことから、発掘調査において成果があった場合、町のPRを含めて報告することは効果的であると考えます。</li> <li>• 中学生による職場体験学習では、埋蔵文化財の整理作業体験を通して望ましい社会性や職業観を身に付けてもらうには良い機会である。</li> </ul>		
課題認識	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 史跡大山崎瓦窯跡や鳥居前古墳など、文化遺産の広報普及とそれを活かしたまちづくり構想が求められている。</li> </ul>		
評価委員の 所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 職場体験の中で、埋蔵文化財の整理作業を中学生自身が体験することは、さらに大山崎の歴史に興味を持つことになり、非常に有意義である。また、キャリア教育として「働くこと」を支援されるのも意義あることと考える。</li> <li>• 大山崎瓦窯跡や鳥居前古墳の発掘調査の成果について、史跡整備事業との関連も持たせ、より多くの町民が認識できるよう、作成されたリーフレット等を活用し広報に工夫をされたい。</li> <li>• 小中学校の社会科の時間に発掘担当者による出前授業を検討されては如何か。</li> <li>• 発掘等が繁雑な中、啓発・普及については歴史資料館との連携が必要ではないか。</li> <li>• 「保存と活用」の観点で啓発をも考えた収蔵庫建設を望む。</li> </ul>		



令和元年度 指導の重点 における目標	<b>【重点目標15】文化活動の促進と文化財の保護と活用</b> 天王山と三川合流地点の地形に恵まれた町の美しい自然と豊かな歴史を活用し、自分の住んでいる地域への愛着や誇りをはぐくむとともに、様々な取組や町内にある数多くの文化財に興味・関心を持ち、郷土の歴史や伝統文化を継承する。		
事務事業名	文化事業	担当部署	生涯学習課 (文化芸術係)
事業実績	<ul style="list-style-type: none"> <li>乙訓地方中学校吹奏楽部演奏会（乙訓文化芸術祭） 6月9日（日） 主催 乙訓文化芸術祭実行委員会・乙訓地方中学校校長会 会場 長岡京記念文化会館</li> </ul>		
成果	<ul style="list-style-type: none"> <li>乙訓文化芸術祭は、大山崎町・長岡京市・向日市内の中学校8校の吹奏楽部が集い、日頃の練習の成果を発揮する良い機会となった。 当該事業は毎年好評で、観客数は約1,200名。こうした大勢の観客を目の前にして演奏する生徒たちは、緊張や失敗、仲間とやり遂げた達成感や充実感等を体感することとなった。よって、「大舞台で、どれだけ自身のパフォーマンスが発揮できるか。」を試すには、絶好の機会であった。</li> </ul>		
課題認識	<ul style="list-style-type: none"> <li>多面的な角度から、各種のニーズに応えることが望まれている。</li> </ul>		
評価委員の 所見	<ul style="list-style-type: none"> <li>乙訓地方中学校吹奏楽部演奏会は中学生吹奏楽部の良い発表機会となっており、今後も継続して実施されたい。</li> <li>平成30年度まで実施されていた民俗芸能鑑賞会が、実施されなかったことは残念である。次年度での復活を望む。</li> </ul>		